

2020年 春季年会

# 年会プログラム

於 筑波大学

2020年3月16日(月)～3月19日(木)

日本天文学会

# 日本天文学会 2020年 春季年会プログラム

期 日 2020年3月16日(月)～3月19日(木)  
 場 所 筑波大学筑波キャンパス(茨城県つくば市天王台)  
 電 話 090-4387-6893 <使用期間 2020年3月15日(日)～3月19日(木)>

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
3月15日 (日)		公開講演会						記者会見					
		受付						天文教育 フォーラム					
3月16日 (月)	A	受付				Y. 教育・広報・他		天文教育 フォーラム		理事会			
	B					Z4. 大学望遠鏡							
	C					V1. 観測機器(電波)							
	D					V2. 観測機器(光赤・重)							
	E					S. 活動銀河核							
	F					P2. 原始惑星系円盤							
	G					Q. 星間現象							
	H					T. 銀河団							
	I					X. 銀河形成							
3月17日 (火)	A	受付	Z1. ALMA+すばる	昼休み (代議員総会)	Z1. ALMA+すばる	ポスター	会員全体集会 (授賞式)	受賞記念講演					
	B		Z4. 大学望遠鏡		Z4. 大学望遠鏡								
	C		V1. 観測機器(電波)		V1. 観測機器(電波)								
	D		V2. 観測機器(光赤・重)		V2. 観測機器(光赤・重)								
	E		S. 活動銀河核		M. 太陽								
	F		P2. 原始惑星系円盤		P2. 原始惑/P1. 星形成								
	G		Q. 星間現象		Q. 星間現象								
	H		W. コンパクト天体		W. コンパクト天体								
	I		X. 銀河形成		X. 銀河形成								
3月18日 (水)	A	受付	Z3. 天文学史	昼休み	Z3. 天文学史	ポスター	特別セッション (X線分光撮像衛星 -XRISM-)	懇親会					
	B		Z2. SPICA		Z2. SPICA								
	C		V3. 観測機器(X線・γ線)		V3. 観測機器(X線・γ線)								
	D		N. 恒星進化		N. 恒星進化								
	E		M. 太陽		M. 太陽								
	F		P1. 星形成		P1. 星形成								
	G		Q. 星間現象/R. 銀河		R. 銀河								
	H		W. コンパクト天体		W. コンパクト天体								
	I		X. 銀河形成		P3. 惑星系								
3月19日 (木)	A	受付	U. 宇宙論	ポスター	昼休み	ジュニアセッション(詳細は <a href="http://www.asj.or.jp/jsession/">http://www.asj.or.jp/jsession/</a> にて)							
	B												
	C		V3. 観測機器(X線・γ線)										
	D		N. 恒星進化										
	E		M. 太陽										
	F		P1. 星形成										
	G		R. 銀河										
	H		W. コンパクト天体										
	I		P3. 惑星系										
		ジュニアセッション(詳細は <a href="http://www.asj.or.jp/jsession/">http://www.asj.or.jp/jsession/</a> にて)											
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	

A会場 : 中地区 第一エリア 1D 棟 2階 (201)  
 B会場 : 中地区 第一エリア 1D 棟 2階 (204)  
 C会場 : 中地区 第一エリア 1C 棟 2階 (210)  
 D会場 : 中地区 第一エリア 1C 棟 3階 (306)  
 E会場 : 中地区 第一エリア 1C 棟 3階 (310)  
 F会場 : 中地区 第一エリア 1C 棟 4階 (403)  
 G会場 : 中地区 第一エリア 1C 棟 4階 (406)  
 H会場 : 中地区 第一エリア 1H 棟 1階 (101)  
 I会場 : 中地区 第一エリア 1H 棟 2階 (201)

受付 : 中地区 第一エリア 1E 棟 1階 (102)  
 ポスター会場 : 中地区 第一エリア 1E 棟 2～4階  
 展示コーナー : 中地区 第一エリア 1E 棟 1階 (104)  
 会員全体集会 : 南地区 大学会館エリア 大学会館講堂  
 受賞記念講演 : 南地区 大学会館エリア 大学会館講堂  
 懇親会 : 南地区 大学会館エリア 大学会館レストラン

## ◎講演数

講演数：合計 625

(口頭講演 (a)：453、ポスター講演 (b)：131、ポスター講演 (c)：41)

## ◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2016年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られております。

## ○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
	(但し講演ありの場合、参加費は無料)	
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税) (1 講演につき)	10,000 円 (1 講演につき)
	(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円 / 非会員 11,000 円)	
年 会 予 稿 集	2,000 円 (消費税込み)	2,000円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

## ○参加登録受付場所：受付

○参加登録受付時間：3月16日 11:00～16:00

3月17日 09:00～16:00

3月18日 09:00～16:00

3月19日 09:00～13:00

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

## ◎講演に関する注意

1. 口頭発表は10会場で並行して行います。口頭講演(添字 a)は、口頭発表9分、質疑応答3分です。  
ポスター講演(添字 b)は、口頭発表3分、3講演で12分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表(添字 b)、(添字 c)は、年会プログラムで指定された時間帯にポスター会場の指定された場所に掲示できます。ポスターセッションを活性化するために、ポスターセッションの時間にはポスター講演者は会場に居てください。終了後は速やかに撤去してください。

ポスターサイズは縦 180 cm×横 90 cm です。

3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。PC はご自身でご用意され、必要に応じて休憩中や開始前にプロジェクターと PC の接続を確認してください。また、講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。ディスプレイ切替器(接続ケーブル：ミニ D-Sub15pin)がありますので、迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中に PC を接続しておいてください。

## ◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
3月15日 (日)	13:00～15:30	つくば国際会議場 中ホール 200	公開講演会
	13:30～15:30	つくば国際会議場	記者会見
3月16日 (月)	15:45～17:15	A会場	天文教育フォーラム
3月17日 (火)	16:15～17:45	大学会館講堂	会員全体集会
	17:45～19:15	大学会館講堂	受賞記念講演
3月18日 (水)	16:15～17:45	I会場	特別セッション 「X線分光撮像衛星-XRISM-」
	18:30～20:30	大学会館レストラン (Tsukuba Demi)	懇親会

## ◎会合一覧表

月 日	時 間	会 場	会 合 名	参加可否*
3月16日 (月)	17:30～18:30	会議室	理事会	D
3月17日 (火)	11:30～12:30	A会場	あなたのキャリアとライフイベント、どう乗り越えるか?	A
	11:30～12:30	C会場	宇宙電波懇談会総会	C
	11:30～12:30	D会場	代議員総会	D
	11:30～12:30	E会場	太陽研究者連絡会・運営委員会	D
	11:30～12:30	F会場	宇宙用語研究会	C
3月18日 (水)	11:30～12:30	A会場	天文・天体物理若手の会総会	C
	11:30～12:30	C会場	インターネット天文学辞典を使ってみよう	A
	11:30～12:30	D会場	光学赤外線天文連絡会	C
	11:30～12:30	E会場	太陽研究者連絡会・報告会	C
	11:30～12:30	F会場	光赤外線大学間連携協議会・観測運営委員会合同会議	B
3月19日 (木)	12:30～13:30	C会場	高エネルギー宇宙物理連絡会報告会	B
	12:30～13:30	E会場	理論天文学宇宙物理学懇談会報告会	C
	12:30～13:30	F会場	女性天文研究者の会 10周年企画	A
	12:30～13:30	G会場	SKA-Japan 定期会合	B

※年会参加者の参加可否の説明（オープン化の程度）

A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい

B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている

C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない

D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

## ◎天文教育フォーラム：「宇宙の魅せ方」

日 時：2020年3月16日（月）15：45～17：15

場 所：A会場

概 要：一般に、市民に対して天文学研究の魅力を伝える機会は、多くの天文学研究者にとって自身の研究を社会的に認知してもらう上で重要な機会です。また、とくに大学に勤務する天文学研究者にとって、天文学の最新の知見や宇宙の魅力を授業を通して学生に伝えていくことは重要な業務の一つです。

しかし、日々研究に没頭する研究者にとって、宇宙での出来事が自身の頭の中では理解できても、それをわかりやすく、そして何より魅力的に伝えることは得意ではないこともしばしばあり得るでしょう。むしろ宇宙の魅力を伝える上では、天文を主として扱う学芸員やプラネタリウム解説員など、宇宙の魅力を伝えることを専門業務としている方々の方がはるかに上手であるかもしれません。

そこで今回のフォーラムでは、「宇宙のおもしろさを伝える」ことを仕事にされている方々から、宇宙や天文学の魅力を伝える術を学ぶ機会を設けたいと思います。本フォーラムを、授業や講演会などで宇宙の魅力を伝えていく上での参考としてもらえれば幸いです。

話題提供（敬称略）：

「大学における授業～教養科目での例～」

金光理（福岡教育大学）

「プラネタリウムの現場から」

塚田健（平塚市博物館）

「科学ライブショー『ユニバース』24年間の実践から」

亀谷和久（国立天文台）

費 用：天文教育フォーラムのみの参加費は不要です。天文学会年会受付で、その旨お伝えください。

実行委員：鴈野重之、中串孝志、亀谷和久、石井貴子、磯部洋明、松本佳也

主 催：公益社団法人 日本天文学会 / 一般社団法人 日本天文教育普及研究会

## ◎特別セッション：「X線分光撮像衛星－XRISM－」

日 時：2020年3月18日（水）16：15～17：45

場 所：I会場

概 要：ASTRO-H（ひとみ）衛星により拓かれた超精密X線分光観測を早急に回復するため、JAXAはNASAとESAの協力のもと、2021年度にXRISM衛星を打ち上げる予定です。衛星には、100km/sの速度を分解できるマイクロカロリメータ検出器 Resolve と 38'の広視野を持つCCD検出器 Xtend が搭載されます。

本特別セッションでは、まずはプロジェクトの進行状況について天文学会の皆様に報告します。次に搭載装置の性能とともに、XRISM衛星によって初めて可能となるサイエンスケースについて、ブラックホールや活動銀河核、ガンマ線バーストなどの突発天体、超新星残骸、銀河団などを例に紹介します。

最後に Performance Verification(PV)観測からデータ公開までのスケジュールと、PV期間中のゲストサイエンティスト制度、その後の公募観測の詳細を説明します。ゲストサイエンティストは本ミッションで初めて導入される制度であり、PV期間に観測される天体のうち原則として1天体へのデータアクセス権があります。他波長の観測者や理論研究者など様々な視点を持った皆様の参加を期待しています。

世 話 人：田代信（ISAS/JAXA、埼玉大学）、松下恭子（東京理科大学）、山口弘悦（ISAS/JAXA）

## 正会員展示

## ◎ 宇宙科学データアーカイブ DARTS

日 時：天文学会期間内

場 所：1E 棟 1 階

概 要：宇宙航空研究開発機構では宇宙科学データのアーカイブサイト DARTS を運営しています。DARTS は天文学、太陽物理学のみならず、月惑星科学、太陽地球物理学や微小重力科学などの多岐にわたる分野の宇宙科学データを公開しています。宇宙線物理学・ $\gamma$ 線天文では「CALET」、X線天文では「てんま」、「ぎんが」、「あすか」、「すざく」、「MAXI」、「ひとみ」、赤外線天文では「BICE」、「IRTS」、「あかり」、電波天文では「はるか」、太陽物理学では「ひのとり」、「ようこう」、「ひので」の観測データがあります。それぞれのデータについて、長期保管とその有効利用を目的として、データのみならずドキュメント・解析プログラムなどの整備も進めており、時代が経過しても過去のデータの解析ができるように配慮しています。

また、目的のデータを見つけやすくする検索システムやクイックルック(早見)アプリケーションを公開しています。これらのアプリケーションは、研究利用を念頭としていますが、大学学部レベルの教育や高校教育、初等教育へも応用されています。

本展示では、DARTS の紹介、ウェブサイトやアプリケーションのデモンストレーションを行い、最新の DARTS を見ていただくとともに、皆様のご意見やご要望など、今後の改善のためのフィードバックを伺いたいと考えております。DARTS をご存知の方も知らなかった方も、以前使っていた方も今使っている方も、ぜひ本ブースへいらしてください。

世 話 人：海老沢研 (JAXA/ISAS) ebisawa.ken@jaxa.jp

中平聡志 (JAXA/ISAS) nakahira.satoshi@jaxa.jp

菅原泰晴 (JAXA/ISAS) sugawara.yasuharu@jaxa.jp

## 正会員展示

## ◎ いよいよ建設！ SKA 計画

日 時：天文学会期間内

場 所：1E 棟 1 階

概 要：SKA : Square Kilometre Array とは、現在進行中の世界最大の電波望遠鏡建設計画です。現在、世界 13ヶ国が参加しており、まもなくオーストラリア西部と南アフリカ共和国とで建設が始まります。日本では馴染みが薄い周波数帯が主たる観測域となっていますが、宇宙論以外にも星間磁場を含む星間現象や星形成、銀河の構造と進化、重力波観測さらには宇宙生命学まで幅広い science が画期的に進むと期待されています。そこで、SKA の実態と現状をお伝えする展示を日本 SKA コンソーシアムが年会会場に設置します。「SKA って何？」という人はもちろん、これまでの特別セッションにご参加いただいたことがある皆さんも、特に他の電波天文学計画に関心がある皆さんには SKA に関する正しい認識を持ってもらうためにぜひ訪れていただきたいと考えています。「運用形態は？」「観測データへのアクセス権は？」「建設の進行予定は？」「どんな観測ができるの？」「自分たちができることは？」などどんな質問も歓迎です。日本の、そして世界の電波天文学を正しく発展させるための判断材料として、ぜひ展示会場で疑問を解いてください！

世 話 人：半田利弘 (鹿児島大学)、高橋慶太郎 (熊本大学)、市來淨與 (名古屋大学)

## ◎日本天文学会公開講演会

日 時：2020年3月15日（日）13：00～15：30（開場 12:30）

場 所：つくば国際会議場 中ホール200

対 象：中学生以上・一般向け

テ ー マ：「誰も見たことのない宇宙を覗く」

20世紀から21世紀にかけて天文学では全く新しい革新的な観測手法を用いることによって、系外惑星の発見や重力波によるブラックホールや中性子星の合体の検出のように誰も見たことのない宇宙の姿を垣間見ることが可能にした研究が数多くなされてきました。本講演会では、そのような常識を覆す天文学の研究成果として、日本の研究者が深く関わっている「はやぶさ2」による小惑星リュウグウのサンプルリターンミッションとイベント・ホライズン・テレスコープによるブラックホールシャドウの直接撮像について、研究の最前線で活躍中の研究者が紹介します。

講師・タイトル：下記をご参照ください。

参加費：無料（事前申し込み不要）

定 員：200名（先着順）

### <講演内容の紹介>

講演1：「小惑星探査機「はやぶさ2」の挑戦とその成果」

講師：吉川 真（JAXA 宇宙科学研究所 准教授）

「はやぶさ2」は、小惑星サンプルリターンミッション「はやぶさ」の後継機として、2014年12月3日に打ち上げられました。約3年半の宇宙の航海を経て、2018年6月27日に目的地である小惑星リュウグウに到着しました。初めて見るリュウグウの姿は、“そろばんの珠”の形という全く想定外のものでした。まずはリュウグウを徹底的に観測し、その後、「はやぶさ」では失敗してしまった小型ローバによる探査やタッチダウンを行い成功しました。さらに世界初となる小惑星表面に人工的なクレーターを作るという実験、そしてその人工クレーター付近からのサンプルの採取にも成功しました。これで、小惑星で行うべき作業はすべて終了しました。あとは2020年末に地球に帰還するだけとなります。ここでは、「はやぶさ2」が挑戦したこととその結果についてご説明します。

講演2：「地球規模の巨大望遠鏡が明らかにした巨大ブラックホールの姿」

講師：本間 希樹（国立天文台 水沢 VLBI 観測所 教授）

国際共同プロジェクトであるイベント・ホライズン・テレスコープが、史上初のブラックホールの影の撮影に成功したと2019年春に発表しました。その写真には、楕円銀河M87の中心に位置するドーナツ状の構造が捉えられていました。そのドーナツの中心部こそが、「ブラックホールが光すら脱出できない天体である」ことを視覚的に示したものです。本講演では、同プロジェクトで日本チームの代表を務める講師が、その撮影の意義や観測方法などについてわかりやすく解説します。

ウェブサイト：<https://www2.ccs.tsukuba.ac.jp/Astro/nenkai-2020/ja/kokai-koen>

主 催：公益社団法人 日本天文学会

共 催：筑波大学

後 援：つくば市教育委員会

## 交通案内

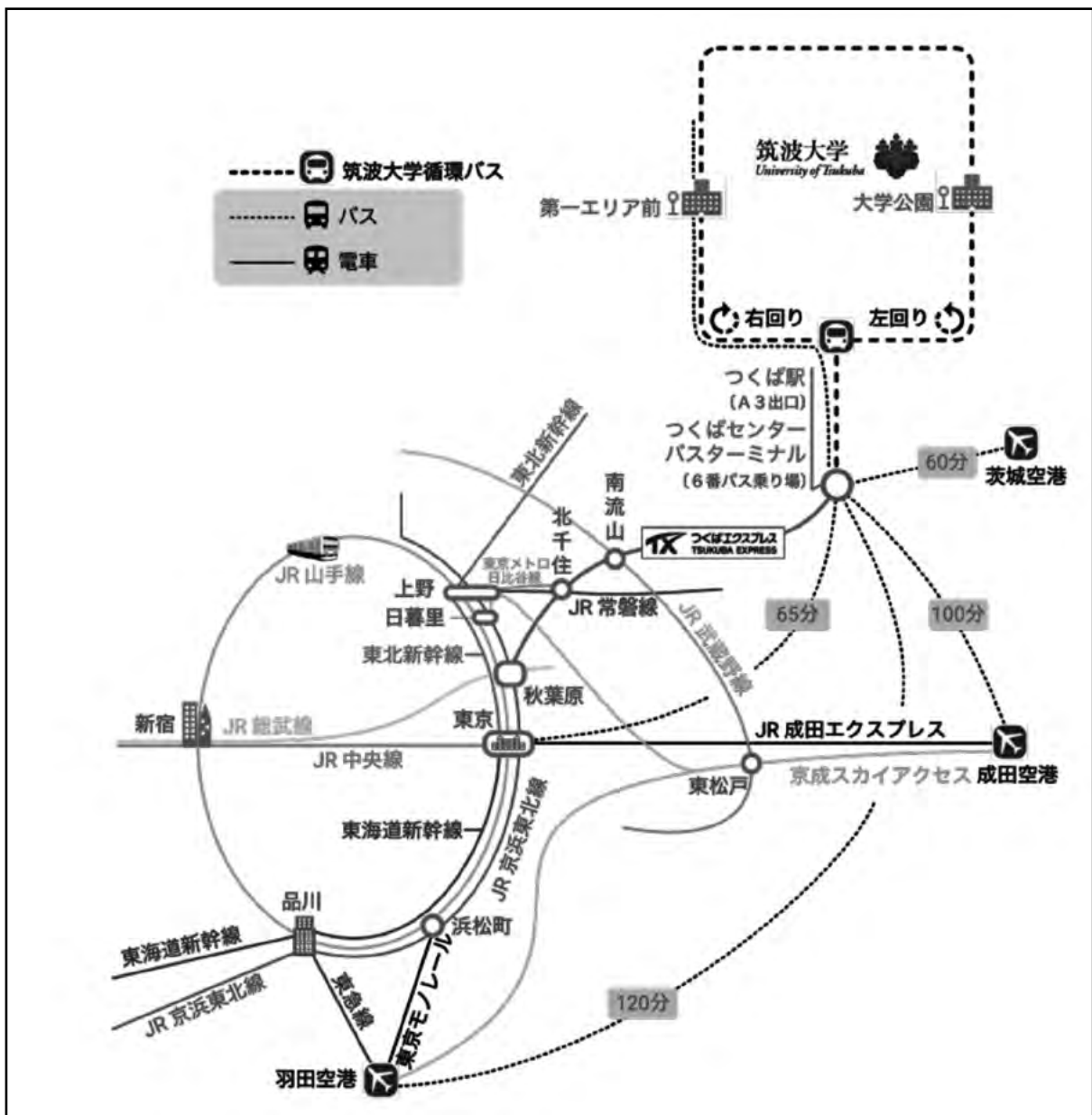
会場は、筑波大学 筑波キャンパス 第一エリア です。

各種交通機関にて『つくば駅・つくばセンターバスターミナル』までお越し後、  
6番バス乗り場で筑波大学行き（筑波大学循環・筑波大学中央）のバスをご利用下さい。  
最寄りのバス停は、行き先によって2つです。

筑波大学循環（右回り）・筑波大学中央 ➡ 第一エリア前

筑波大学循環（左回り） ➡ 大学公園

### 公共交通機関アクセスマップ





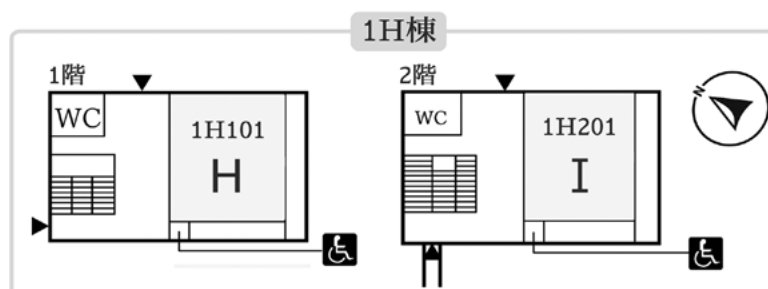
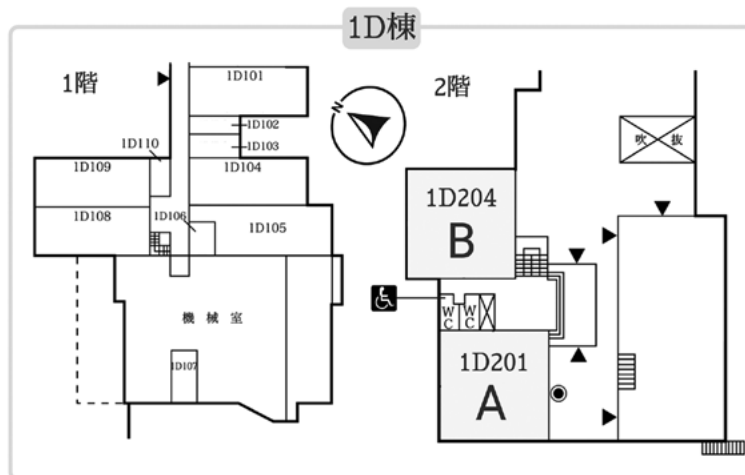
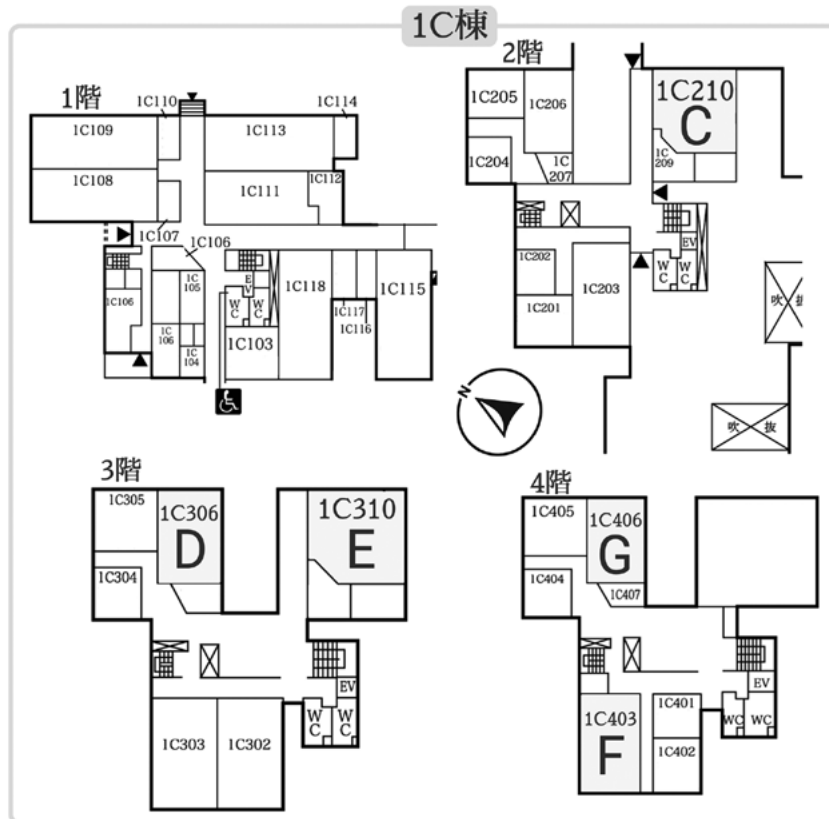
## つくば駅までのおすすめルート

	成田空港から	羽田空港から	東海道新幹線	東北新幹線
バスの場合	成田空港 関東鉄道バス ：〔~100分〕 つくばセンター	羽田空港 関東鉄道バス ：〔~120分〕 つくばセンター	： 東海道新幹線 東京駅 (八重洲南口2番バス乗り場) ： 関東鉄道バス, JRバス (「筑波大学」行または 「つくばセンター」行) ： 〔~70分〕 つくばセンター (「筑波大学」行の場合は, 「大学会館前」または終点 で下車)	： 東北新幹線 東京駅 (八重洲南口2番バス乗り場) ： 関東鉄道バス, JRバス (「筑波大学」行または 「つくばセンター」行) ： 〔~70分〕 つくばセンター (「筑波大学」行の場合は, 「大学会館前」または終点 で下車)
電車の場合	成田空港 ： 京成成田スカイアクセス 東松戸駅 ： JR 武蔵野線 南流山駅 ： つくばエクスプレス つくば駅 〔計 80分~100分〕	羽田空港 ： 東京モノレール 浜松町駅 ： JR 山手線 または ： JR 京浜東北線 秋葉原駅 ： つくばエクスプレス つくば駅 〔計 90分~100分〕	： 東海道新幹線 東京駅 ： JR 山手線 または ： JR 京浜東北線 秋葉原駅 ： つくばエクスプレス つくば駅 〔東京駅から60分~70分〕	： 東北新幹線 上野駅 ： JR 常磐線 または ： 東京メトロ日比谷線 北千住駅 ： つくばエクスプレス つくば駅 〔上野駅から55分~65分〕



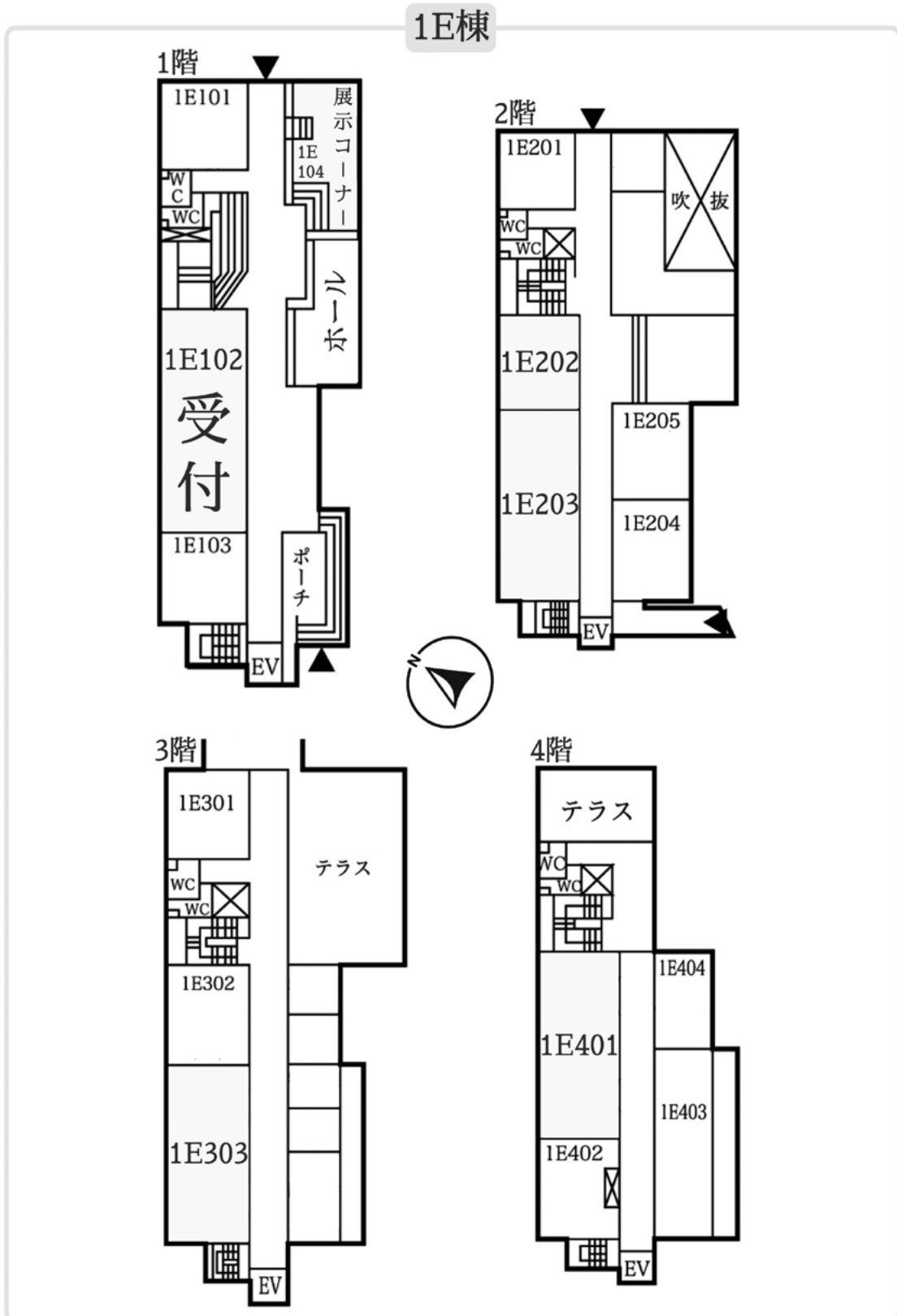
## 講演会場配置図

講演会場：1C棟(C・D・E・F・G会場)、1D棟(A・B会場)、1H棟(H・I会場)



## 受付・ポスター会場配置図

受付・ポスター会場：1E棟



## 口頭セッション 3月16日(月)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場	
開始時刻	教育・他	大学望遠鏡	観測機器 (電波)	観測機器 (光赤・重)	活動銀河核	原始惑星系 円盤	星間現象	銀河団	銀河形成	
13:00	Y01a	Z401r ~ Z410a 全体討論	V101a	V201a	S01a	P201a	Q01a	T01a	X01a	
13:12	Y02a		V102a	V202a	S02a	P202a	Q02a	T02a	X02a	
13:24	Y03a		V103a	V203a	S03a	P203a	Q03a	T03a	X03a	
13:36	Y04a		V104a	V204a	S04a	P204a	Q04a	T04a	X04a	
13:48	Y05a		V105a	V205a	S05a	P205a	Q05a	T05a	X05a	
14:00	Y06b Y07b Y08b		V106a	V206a	S06a	P206a	Q06a	T06a	X06a	
14:12	Y09a		V107a	V207a	S07a	P207a	Q07a	T07a	X07b X08b X09b	
14:24	Y10a		V108b V109b V110b	V208a	S08a	P208a	Q08a	T08a	X10b X11b X12b	
14:36	Y11a		V112a	V209a	S09a	P209a	Q09a	T09b	X13a	
14:48	Y12a		V113b V114b V115b	V210b V211b V212b	S10a	P210a	Q10b Q11b Q12b	-	X14a	
15:00	Y13b Y14b Y15b		V117a	V213b V214b	S11b S12b S13b	-	-	-	X15b	
15:12	Y16b Y17b Y18b		-	-	S14b S15b S16b	-	-	-	-	
15:24	Y19b		-	-	-	-	-	-	-	
15:45	天文教育フォーラム (A会場)									
17:30	理事会									

## 口頭セッション 3月17日(火)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	ALMA+ すばる	大学望遠鏡	観測機器 (電波)	観測機器 (光赤・重)	活動銀河核	原始惑星系 円盤	星間現象	コンパクト 天体	銀河形成
09:30	Intro. Z101r ~ Z108a	Z411a ~ Z420a	V118a	V216a	S20a	P211a	Q13a	W01a	X16a
09:42			V119a	V217a	S21a	P212a	Q14a	W02a	X17a
09:54			V120a	V218a	S22a	P213a	Q15a	W03a	X18a
10:06			V121a	V219a	S23a	P214a	Q16a	W04a	X19a
10:18			V122a	V220a	S24a	P215a	Q17a	W05a	X20a
10:30			V123a	V221a	S25a	P216a	Q18a	W06a	X21a
10:42			V124a	V222b V223b V224b	S26a	P217a	Q19a	W07a	X22a
10:54			V125a	V227a	S27a	P218a	Q20a	W08a	X23a
11:06			V126a	V228a	S28a	P219a	Q21a	W09b W10b W11b	X24b X25b X26b
11:18			V127b V128b	V229b V230b V231b	S29a	P220a	Q22a	-	X27b X28b X29b
11:30			-	-	S30a	-	Q23b	-	-
11:30	昼休み(代議員総会)								
開始時刻	ALMA+ すばる	大学望遠鏡	観測機器 (電波)	観測機器 (光赤・重)	太 陽	原始惑星系 円盤/星形成	星間現象	コンパクト 天体	銀河形成
13:00	Z109a ~ Z115a Summary	Z421r ~ Z427a	V129a	V232a	M01a	P221a	Q25a	W13a	X30a
13:12			V130a	V233a	M02a	P222a	Q26a	W14a	X31a
13:24			V131a	V234a	M03a	P223b P224b P101b	Q27a	W15a	X32a
13:36			V132a	V235a	M04a	P102b P103b P104b	Q28a	W16a	X33a
13:48			V133a	V236a	M05a	P107a	Q29a	W17a	X34a
14:00			V134a	V237a	M06a	P108a	Q30a	W18a	X36a
14:12			V135a	V238a	M07a	P109a	Q31a	W19a	X37a
14:24			V136a	V239a	M08a	P110a	Q32a	W20a	X38a
14:36			V137b V138b V140b	V240a	M09a	P111a	Q33a	W21a	X39a
14:48			V141b V142b V143b	V241b V242b	M10b M11b	P112a	Q34b	W22b W23b W24b	-
15:00			ポスター						
16:15	会員全体集会								
17:45	受賞記念講演								

# 口頭セッション 3月18日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	天文学史	SPICA	観測機器 (X線・γ線)	恒星進化	太陽	星形成	星間現象/ 銀河	コンパクト 天体	銀河形成
09:30	Z301r ~ Z310a	Z201r ~ Z212b	V301a	N01a	M12a	P113a	Q35a	W25a	X41a
09:42			V302a	N02a	M13a	P114a	Q36a	W26a	X42a
09:54			V303a	N03a	M14a	P115a	Q37a	W27a	X43a
10:06			V304b V305b V306b	N04a	M15a	P116a	Q38a	W28a	X44a
10:18			V307a	N05a	M16a	P117a	Q39a	W29a	X45a
10:30			V308a	N06a	M17a	P118a	R01a	W30a	X46a
10:42			V309a	N07a	M18a	P119a	R02a	W31a	X47a
10:54			V310a	N08a	M19a	P120a	R03a	W32a	X48a
11:06			V311b V312b V313b	N09b N10b N11b	M20b M21b M22b	P121b P122b P123b	R04b R05b R06b	W33b W34b W35b	X49a
11:18			-	N12b	M23b M24b	P124b P125b P126b	R07b R08b	-	X50a
11:30	昼休み								
開始時刻	天文学史	SPICA	観測機器 (X線・γ線)	恒星進化	太陽	星形成	銀河	コンパクト 天体	惑星系
13:00	Z311r ~ Z318a	Z215r ~ Z232b	V314a	N15a	M26a	P128a	R13a	W38a	P301a
13:12			V315a	N16a	M27a	P129a	R14a	W39a	P302a
13:24			V316a	N17a	M28a	P130a	R15a	W40a	P303a
13:36			V317a	N18a	M29a	P131a	R16a	W41a	P304a
13:48			V318a	N19a	M30a	P132a	R17a	W42a	P305a
14:00			V319a	N20a	M31a	P133a	R18a	W43a	P306a
14:12			V320a	N21a	M32a	P134a	R19a	W44a	P307a
14:24			V321a	N22a	M33a	P135a	R20a	W45a	P308a
14:36			V322a	N23a	M34a	P136a	R21a	W46a	P309b P310b P311b
14:48			V323a	N24a	M35a	-	R22a	W47a	P312b P313b P314b
15:00	-	-	-	-	-	W48a	-		
15:00	ポスター								
16:15	特別セッション「X線分光撮像衛星-XRISM-」(I会場)								
18:30	懇親会(大学会館レストラン Tsukuba Demi)								

## 口頭セッション 3月19日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	宇宙論		観測機器 (X線・γ線)	恒星進化	太陽	星形成	銀河	コンパクト 天体	惑星系
09:30	U01a	-	V326a	N25a	M36a	P137a	R23a	W49a	P318a
09:42	U02a	-	V327a	N26a	M37a	P138a	R24a	W50a	P319a
09:54	U03a	-	V328a	N27a	M38a	P139a	R25a	W51a	P320a
10:06	U04a	-	V329a	N28a	M39a	P140a	R26a	W52a	P321a
10:18	U05a	-	V330a	N29a	M40a	P141a	R27a	-	P322a
10:30	U06a	-	V331a	N30a	M41a	P142a	R28a	-	P323a
10:42	U07a	-	V332a	N31a	-	P143a	R29a	-	P324a
10:54	U08a	-	-	N32a	-	P144a	R30a	-	P325a
11:06	U09b	-	-	N33a	-	P145a	-	-	P326a
11:18	-	-	-	N34a	-	P146a	-	-	-
11:30	-	-	-	N35a	-	-	-	-	-
11:30	ポスター								
12:30	昼休み								



ポスターセッション 3月16日(月) ~ 3月19日(木)

<p>【Z2. SPICA】(19)</p> <p>Z206b Z207b Z208b Z211b Z212b</p> <p>Z213c Z214c Z217b Z218b Z219b</p> <p>Z220c Z221b Z225b Z226b Z227b</p> <p>Z228c Z231b Z232b Z233c</p> <p>【Z3. 天文学史】(1)</p> <p>Z309c</p> <p>【Z4. 大学望遠鏡】(5)</p> <p>Z405b Z406b Z407b Z408b Z409b</p> <p>【M. 太陽】(8)</p> <p>M10b M11b M20b M21b M22b</p> <p>M23b M24b M25c</p> <p>【N. 恒星・恒星進化】(7)</p> <p>N09b N10b N11b N12b N13c</p> <p>N14c N36c</p> <p>【P1. 星・惑星形成(星形成)】(13)</p> <p>P101b P102b P103b P104b P105c</p> <p>P106c P121b P122b P123b P124b</p> <p>P125b P126b P127c</p> <p>【P2. 星・惑星形成(原始惑星系円盤)】(3)</p> <p>P223b P224b P225c</p>	<p>【P3. 星・惑星形成(惑星系)】(9)</p> <p>P309b P310b P311b P312b P313b</p> <p>P314b P315c P316c P317c</p> <p>【Q. 星間現象】(6)</p> <p>Q10b Q11b Q12b Q23b Q24c</p> <p>Q34b</p> <p>【R. 銀河】(9)</p> <p>R04b R05b R06b R07b R08b</p> <p>R09c R10c R11c R12c</p> <p>【S. 活動銀河核】(9)</p> <p>S11b S12b S13b S14b S15b</p> <p>S16b S17c S18c S19c</p> <p>【T. 銀河団】(1)</p> <p>T09b</p> <p>【U. 宇宙論】(2)</p> <p>U09b U10c</p> <p>【V1. 観測機器(電波)】(18)</p> <p>V108b V109b V110b V111c V113b</p> <p>V114b V115b V116c V127b V128b</p> <p>V137b V138b V139c V140b V141b</p> <p>V142b V143b V144c</p>
--	---

**ポスターセッション 3月16日(月) ~ 3月19日(木)****【V2. 観測機器(光赤外・重力波・その他)】(17)****V210b V211b V212b V213b V214b****V215c V222b V223b V224b V225c****V226c V229b V230b V231b V241b****V242b V243c****【V3. 観測機器(X線・ $\gamma$ 線)】(8)****V304b V305b V306b V311b V312b****V313b V324c V325c****【W. コンパクト天体】(12)****W09b W10b W11b W12c W22b****W23b W24b W33b W34b W35b****W36c W37c****【X. 銀河形成】(15)****X07b X08b X09b X10b X11b****X12b X15b X24b X25b X26b****X27b X28b X29b X35c X40c****【Y. 天文教育・広報普及・その他】(10)****Y06b Y07b Y08b Y13b Y14b****Y15b Y16b Y17b Y18b Y19b**

## Z1. ALMAとすばるのシナジーによる銀河研究

3月17日（火）午前・A会場		3月17日（火）午後・A会場	
09:30	Introduction and Scope of this Session Daisuke Iono (NAOJ)	13:00	Z109a Detection of a CO emission line counterpart of a $z = 3.3$ damped Ly $\alpha$ system 井上昭雄 (早稲田大学)
09:36	Z101r Galaxy formation and evolution seen by ALMA and Subaru UMEHATA, Hideki (RIKEN)	13:12	Z110a Rapid co-evolution into quiescence? Subaru + ALMA view on $z > 6$ low-luminosity quasars Takuma Izumi (NAOJ)
10:06	Z102a Numerical simulations of multi-wavelength radiative properties of galaxies in the epoch of reionization 荒田翔平 (大阪大学)	13:24	Z111r The Evolving Landscape In and Around the Field of Nearby Galaxy Studies 幸田仁 (Stony Brook University)
10:18	Z103a Molecular gas reservoirs of cluster galaxies at cosmic noon 林将央 (国立天文台)	13:54	Z112a Connecting molecules with the others in cosmological simulations 井上茂樹 (筑波大学/国立天文台)
10:30	Z104a New insights into the environmental dependence of massive galaxy formation from a panchromatic view of the first galaxy clusters WANG, Tao (The University of Tokyo/NAOJ)	14:06	Z113a Star-formation and molecular cloud properties in a low metallicity environment: Subaru/HSC-ALMA-ASTE observations of NGC 6822 TOSAKI, Tomoka (Joetsu University of Education)
10:42	Z105a ALMA lensing cluster survey (ALCS) and follow-up observations using SUBARU KOHNO, Kotaro (The University of Tokyo)	14:18	Z114a ALMA CO Observations of a Giant Molecular Cloud in M33: Evidence for High-Mass Star Formation Triggered by Cloud-Cloud Collisions Hidetoshi Sano (Nagoya University)
10:54	Z106a ALMA Reveals the Internal Structure in a $z \sim 3$ Submillimeter Galaxy 小山紗桜 (新潟大学)	14:30	Z115a Multiphase properties of ISM in a nearby radio galaxy, NGC 1316 Kana Morokuma (The University of Tokyo)
11:06	Z107a The low dust content of massive, quiescent galaxies at $z \sim 2$ Masayuki Tanaka (NAOJ)	14:42	Summary Yuichi Matsuda (NAOJ)
11:18	Z108a Star-formation rates of two GRB host galaxies at $z \sim 2$ and a [C II] deficit observed with ALMA Tetsuya Hashimoto (National Tsing Hua University)		

## Z2. SPICA が切り拓くサイエンス

3月18日(水) 午前・B会場			Z214c 宇宙初期の銀河星間環境を特徴付けるダストの性質の理解 左近樹(東京大学)
09:30	Z201r 超高感度赤外線衛星 SPICA による宇宙進化史の解明 金田英宏(名古屋大学)		
09:51	Z202r SPICA が革新する系外銀河サイエンス 泉拓磨(国立天文台)	3月18日(水) 午後・B会場	
10:12	Z203a Importance of Dust in the Evolution of Galaxies: Prospect for SPICA 竹内努(名古屋大学)	13:00	Z215r SPICA が切り拓くサイエンス: 星・惑星形成, 惑星系の観測ハイライト 平野照幸(東京工業大学)
10:24	Z204a WISE-Planck far-infrared detection of Hyper Suprime-Cam protoclusters at $z \sim 4$ 久保真理子(国立天文台)	13:21	Z216a SPICA を用いた太陽系小天体の科学 小林仁美(LLP 京都虹光房)
10:36	Z205a The Slit-Less Spectroscopic Survey of Galaxies (SPICY) with AKARI/IRC - perspective to SPICA 和田武彦(宇宙航空研究開発機構)	13:33	Z217b SPICA の中間赤外線分光観測で探る木星トロヤ群小惑星の科学 吉田二美(千葉工業大学)
10:48	Z206b Unveiling the nature of HST-dark galaxies by using SPICA KOHNO, Kotaro (The University of Tokyo)	13:33	Z218b SPICA による中間赤外線分光観測で迫る太陽系内惑星間塵の性質 高橋葵(アストロバイオロジーセンター)
10:48	Z207b 広領域 SMI-CAM サーベイで探る初期宇宙の塵に覆われた AGN 松原英雄(宇宙航空研究開発機構)	13:33	Z219b SPICA 中間遠赤外線分光観測による彗星の水氷・ケイ酸塩鉱物探査 大坪貴文(宇宙航空研究開発機構)
10:48	Z208b SMI 高分散分光を用いた $z \sim 2$ AGN トーラス領域の吸収線観測 馬場俊介(国立天文台)		Z220c SPICA による太陽系惑星・衛星大気の観測 佐川英夫(京都産業大学)
11:00	Z209a 「近傍銀河・銀河系」班の概要と“stellar feedback” についての検討 江草芙実(東京大学)	13:33	Z221b SPICA による系外惑星の熱輻射の検出・キャラクター化 藤井友香(東京工業大学)
11:12	Z210a 「近傍銀河・銀河系」班: 銀河円盤外のガスやダストについての検討 金子紘之(国立天文台)	13:48	Z222a SPICA を用いた解体惑星の分光観測から系外惑星組成に迫る 奥谷彩香(東京工業大学)
11:24	Z211b OH <sup>+</sup> , H <sub>2</sub> O <sup>+</sup> , H <sub>3</sub> O <sup>+</sup> で探る分子ガスの電離度 渡邊祥正(日本大学)	14:00	Z223a SPICA 望遠鏡による遠赤外線偏光観測で探る原始惑星系円盤のダスト特性 田崎亮(東北大学)
11:24	Z212b Statistical Quantification and Parametrization of Galaxies with SPICA 竹内努(名古屋大学)	14:12	Z224a SPICA の水輝線観測が明らかにする原始惑星系円盤の熱・力学構造 森昇志(東京大学)
	Z213c 近傍活動銀河の B-BOP/SPICA 遠赤外線連続光偏光観測 中西康一郎(国立天文台)	14:24	Z225b 様々な物理量を考慮した原始惑星系円盤モデル計算と、SPICA 高分散分光観測による H <sub>2</sub> O スノーライン位置同定の可能性検討 野津翔太(Leiden University)

## Z3. 天文学史の最新研究動向

14:24	Z226b H <sub>2</sub> O スノーライン検出を目指す SPICA 高分散分光観測観測シミュレーション 中川貴雄(宇宙航空研究開発機構)	3月18日(水) 午前・A会場
14:24	Z227b SPICA で探るデブリ円盤の進化と太陽系の起源 石原大助(宇宙航空研究開発機構)	09:30 Z301r 地震の歴史をまなぶー歴史地震研究の現在 加納靖之(東京大学)
	Z228c SPICA による原始惑星系円盤からの複雑な有機分子輝線の観測予測2 野村英子(国立天文台)	09:54 Z302a オープンサイエンス/シチズンサイエンスの前史としてのアマチュア天文学 玉澤春史(京都市立芸術大学/京都大学)
14:36	Z229a 宇宙赤外線望遠鏡 SPICA による分子雲磁場の観測と星形成機構 島尻芳人(国立天文台)	10:06 Z303a 長野県の天文史料調査 陶山徹(長野市立博物館)
14:48	Z230a SPICA で探る超新星爆発でのダストの形成と破壊 野沢貴也(国立天文台)	10:18 Z304a 「長野県は宇宙県」と近代天文学史 大西浩次(長野工業高等専門学校)
15:00	Z231b SPICA で探る分子雲の多相構造 岩崎一成(国立天文台)	10:30 Z305a 水沢の歌にみる緯度観測所と木村栄馬場幸栄(一橋大学)
15:00	Z232b SPICA による分子性固体の遠赤外領域観測で展開するサイエンスの検討 日高宏(北海道大学)	10:42 Z306a 「時の記念日」と東京天文台 井上毅(明石市立天文科学館)
	Z233c SPICA で探る分子雲の磁場構造と星形成機構 井上剛志(名古屋大学)	10:54 Z307a 日本語の「小惑星」の起源 臼井文彦(神戸大学)
		11:06 Z308a 京都女子大学の望遠鏡を通して見た京都東山の天文 中尾真弓(京都女子大学)
		Z309c 木辺成磨和尚からみる仏の道と天文学 上田華穂(京都女子大学)
		11:18 Z310a ハンセン病療養所・長島愛生園における天文および気象観測 磯部洋明(京都市立芸術大学)

## Z4. 突発現象天文学と大学教育における大学望遠鏡のシナジー

3月18日(水) 午後・A会場	3月16日(月) 午後・B会場
13:00 Z311r 楔形文字史料から見るオーロラ現象 三津間康幸(筑波大学)	13:00 Z401r OISTERで実現したこと、いま目指すべき道 川端弘治(広島大学)
13:24 Z312a マウンダー極小期の太陽コロナ構造についての一試論 早川尚志(大阪大学)	13:21 Z402r OISTERと電波源突発現象とのシナジー 内山瑞穂(国立天文台)
13:36 Z313a 1788年10月の宇宙天気現象 服部健太郎	13:42 Z403a 山口干渉計 YIによる X線連星 GRS1915+105のフラックスモニター観測 藤沢健太(山口大学)
13:48 Z314a ベトナム史書の日食記事 岡崎彰	13:54 Z404a 茨城 32-m 電波望遠鏡による 6.7 GHz メタノールレーザー源の単一鏡強度モニターを活用した突発現象天文学および大学教育 米倉覚則(茨城大学)
14:00 Z315a 天の力学から原子の力学へ :20世紀前半のハミルトン・ヤコビ理論の展開 中根美知代(成城大学)	14:06 Z405b 突発天体の即時分光を目指した IRSF 近赤外線分光器の開発 國生拓摩(名古屋大学)
14:12 Z316r 近世日本の日記史料にみる天文認識—天文現象の記録化の意義と科学研究への活用に向けて— 岩橋清美(国文学研究資料館)	14:06 Z406b 埼玉大学望遠鏡・装置制御系“SaCRAシステム”および36cm望遠鏡の改良 金井昂大(埼玉大学)
14:36 Z317a 明和6年の彗星の記録について 藤原康徳(日本流星研究会)	14:06 Z407b 光赤外線大学間連携における観測企画運営委員会の活動と有機的連携の実現 山中雅之(京都大学)
14:48 Z318a 麻田剛明和二年乙酉見行艸 平井正則(福岡教育大学)	14:18 Z408b 光赤外線天文学大学間連携による短期滞在実習プログラムの実施(3) 大朝由美子(埼玉大学)
	14:18 Z409b 光赤外線大学間連携の望遠鏡による X線連星の可視光・近赤外線観測 村田勝寛(東京工業大学)
	14:27 Z410a せいめい望遠鏡に搭載する可視光高速測光分光器の概要と狙い 野上大作(京都大学)
	14:39 全体討論

3月17日(火) 午前・B会場		3月17日(火) 午後・B会場	
09:30	Z411a 東京大学アタカマ天文台 TAO 6.5m 望遠鏡による突発天体観測 土居守(東京大学)	13:00	Z421r 超新星・恒星進化理論と OISTER のシナジー 前田啓一(京都大学)
09:42	Z412a 木曾シュミット望遠鏡 Tomo-e Gozen 高頻度突発天体サーベイ 諸隈智貴(東京大学)	13:21	Z422r OISTER と全天 X 線監視装置 MAXI のシナジー: 光赤外線・X 線モニタ観測によるブラックホール X 線連星の研究 志達めぐみ(愛媛大学)
09:54	Z413a Tomo-e Gozen サーベイにおける画像認識を用いた突発天体検出 浜崎凌(甲南大学)	13:42	Z423a BH X 線連星 MAXI J1820+070 の 2019 年の再増光時における多波長観測(2) 安達稜(東京工業大学)
10:06	Z414a 木曾広視野高速カメラ Tomo-e Gozen による微小地球接近小惑星の探索 紅山仁(東京大学)	13:54	Z424a 多波長モニター観測から探る WZ Sge 型矮新星の再増光の起源 磯貝桂介(京都大学)
10:18	Z415a Tomo-e Gozen サーベイを使った近傍重力マイクロレンズ探索 福井暁彦(東京大学)	14:06	Z425r せいめい望遠鏡の開発と運用状況 木野勝(京都大学)
10:30	Z416a MU レーダと Tomo-e Gozen による微光流星同時観測 大澤亮(東京大学)	14:27	Z426r 恒星フレアの多波長モニタ観測 ~ OISTER と TESS/NICER の連携 ~ 行方宏介(京都大学)
10:42	Z417a 重力波観測ラン O3 における J-GEM による電磁波対応天体探査 笹田真人(広島大学)	14:48	Z427a 中小口径望遠鏡と TESS の連携によるフレア星 EV Lac の測光分光同時観測 前原裕之(国立天文台)
10:54	Z418a GPU を用いた高速画像一次処理パイプライン 庭野聖史(東京工業大学)		
11:06	Z419a せいめい・かなたによる近傍銀河に現れた Ca-rich transient SN 2019ehk の観測 中岡竜也(広島大学)		
11:18	Z420a 近傍に現れた特異な Ia 型超新星 SN 2019muj の可視・近赤外線観測 川端美穂(京都大学)		

## M. 太陽

3月17日(火)午後・E会場		3月18日(水)午前・E会場	
13:00	M01a 高感度 EUV/UV 分光望遠鏡衛星 (Solar-C EUVST): 全体進捗状況 今田晋亮(名古屋大学)	09:30	M12a 太陽光球でのジェット現象とその上層大気への影響 古谷侑士(京都大学)
13:12	M02a Solar-C EUVST: データ利用・運用と科学成果創出へ向けた体制構築 鳥海森(宇宙航空研究開発機構)	09:42	M13a Numerical simulation and identification of fast and slow MHD waves in heating magnetic chromosphere by realistic simulation Yikang Wang (The University of Tokyo)
13:24	M03a 磁気リコネクションに伴う粒子加速の理解を目指す衛星計画 PhoENiX の進捗報告(2020年春) 成影典之(国立天文台)	09:54	M14a 部分電離プラズマ中で起きる磁気リコネクションの数値的研究 富野芳樹(京都大学)
13:36	M04a 国際コンソーシアムによる野辺山電波ヘリオグラフの運用(2015年4月-2020年3月) 増田智(名古屋大学)	10:06	M15a 太陽のCaK線観測による紫外線放射の推定 田中宏樹(京都大学)
13:48	M05a 強密度成層下の乱流起電力を考慮した球殻平均場太陽ダイナモモデル 政田洋平(愛知教育大学)	10:18	M16a Verification of CLASP2's Polarization Accuracy Donguk Song (NAOJ)
14:00	M06a 太陽表面における磁場要素の磁束と速度の関係 高畑憲(千葉大学)	10:30	M17a 磁気静水圧平衡非フォースフリー磁場モデルによる太陽浮上磁場の再構成 三好隆博(広島大学)
14:12	M07a 太陽黒点の磁場形状と観測量の関係 石倉秋人(千葉大学)	10:42	M18a 線形フォースフリー磁場を利用した太陽活動領域磁場のモデリング 中谷賢人(名古屋大学)
14:24	M08a 静穏領域水平磁場の太陽周期依存性 花岡庸一郎(国立天文台)	10:54	M19a 非線形フォースフリー磁場モデリングに基づいた活動領域 12673 におけるエネルギー蓄積過程とフレアの発生機構に関する研究 II 山崎大輝(京都大学)
14:36	M09a 南極ドームふじアイスコアからさぐる気温変動と太陽活動との相関 望月優子(理化学研究所)	11:06	M20b 飛騨天文台 SMART 望遠鏡マグネトグラフ偏光キャリブレーション実験 III 山崎大輝(京都大学)
14:48	M10b 機械学習を用いた太陽黒点の複雑さ分類機の開発及び太陽フレア予報への応用 木原孝輔(京都大学)	11:06	M21b H $\alpha$ 線 2 波長同時撮像観測によるプロミネンスの高解像度速度場観測 宮良碧(茨城大学)
14:48	M11b 太陽活動周期21期末から24期における、活動領域の磁場タイプ別の出現数の変動とフレア活動 滝澤寛(神奈川工科大学/早稲田大学高等学院)	11:06	M22b プラズマの電子密度診断に用いる Fe XIV 輝線強度比の衝突輻射モデル評価 神原永昌(総合研究大学院大学)



11:18	M23b	太陽風シミュレーションモデルの高解像度化によるコロナホールの再現と高速風予測について II 田光江 (情報通信研究機構)	14:36	M34a	白色光フレアと磁場の関係についての統計的研究 渡邊恭子 (防衛大学校)
11:18	M24b	惑星間空間における II 型電波バーストのスペクトルの特徴と太陽高エネルギー粒子の関係 岩井一正 (名古屋大学)	14:48	M35a	フレア統計の応用によるフレア活動史の過去への伸長 河村聡人 (京都大学)
	M25c	H $\alpha$ 線と MgI 457.1 nm 線を用いた 2 波長同時高速 2 次元分光観測によるダークフィラメントのダイナミクスの時間変動 當村一朗 (大阪府立大学工業高等専門学校)	3 月 19 日 (木) 午前・E 会場		
3 月 18 日 (水) 午後・E 会場			09:30	M36a	観測データによる太陽フレア EUV 放射スペクトルモデルの検証 西本将平 (防衛大学校)
13:00	M26a	彩層温度最低値の違いによるコロナへの影響 鷺ノ上遥香 (東京大学)	09:42	M37a	TESS と MAXI を用いた恒星フレアにおける白色光フレアエネルギーと X 線最大フラックスの関係 岡本豊 (中央大学)
13:12	M27a	X 線ループ構造パラメータとコロナ質量放出の統計解析 飯田佑輔 (新潟大学)	09:54	M38a	電子ビーム加熱による太陽フレア大気の輻射流体計算と Mg II 線放射 鄭祥子 (京都大学)
13:24	M28a	彩層・太陽風における Alfvén 波の非線形過程とその磁場強度依存性 坂上峻仁 (京都大学)	10:06	M39a	超小型衛星を用いた太陽フレアからの熱的・非熱的放射の時間発展の研究 長澤俊作 (Kavli IPMU)
13:36	M29a	EIS 分光データの強度勾配の大きい領域に現れる偽速度場について 原弘久 (国立天文台)	10:18	M40a	磁力線と荷電粒子の運動 柴崎清登 (太陽物理学研究所)
13:48	M30a	表面磁束輸送モデル計算及び PFSS 外挿法を用いたコロナホール分布の時間発展計算 渡邊優作 (名古屋大学)	10:30	M41a	太陽黒点は (未確認の) "向太陽循環水流" がつくる現象? 藤原ケイ
14:00	M31a	コロナ加熱を想定した磁気リコネクションの Hall MHD 計算 村上享平 (名古屋大学)			
14:12	M32a	機械学習と流体シミュレーションを用いたナノフレア解析 河合敏輝 (名古屋大学)			
14:24	M33a	CME 発生活動領域の同定および機械学習による発生予測 西塚直人 (情報通信研究機構)			

## N. 恒星・恒星進化

3月18日(水) 午前・D会場		N13c	VERAによるミラ型変光星 BX Cam の位置天文観測 松野雅子(鹿児島大学)		
09:30	N01a	多波長モニタ観測で探るM型星フレアのバルマー線の輝線輪郭非対称性 野津湧太(京都大学)	N14c	VERAによる長周期変光星のVLBI位置天文観測およびGaiaとの比較 中川亜紀治(鹿児島大学)	
09:42	N02a	Kepler全データを使った太陽類似星スーパーフレアの統計解析 岡本壮師(京都大学)	3月18日(水) 午後・D会場		
09:54	N03a	RY Draからの星風の安定性 保田悠紀(北海道大学)	13:00	N15a	AKARI, WISEによるOH/IR星の中間赤外線長周期変光調査 橋健吾(東京大学)
10:06	N04a	アルベーン波加熱を含む磁気回転風モデル 庄田宗人(国立天文台)	13:12	N16a	星震学を利用した銀河系ハロー星種族の形成タイムスケールへの制限 松野允郁(総合研究大学院大学/国立天文台)
10:18	N05a	磁気回転星進化の新しい計算手法 高橋亘(Max Planck Institute for Gravitational Physics)	13:24	N17a	近赤外線YJバンドに現れる鉄吸収線ペアのライン強度比を用いた赤色超巨星の有効温度の決定 谷口大輔(東京大学)
10:30	N06a	2次元回転星の平衡形状と擬似的進化計算 小形美沙(早稲田大学)	13:36	N18a	Determining $T_{\text{eff}}$ and $[\text{Fe}/\text{H}]$ with line-depth ratios using infrared YJ-band spectra Mingjie Jian(The University of Tokyo)
10:42	N07a	LAMOST/すばる望遠鏡による金属欠乏星探査と炭素過剰星の組成解析 青木和光(国立天文台)	13:48	N19a	A Comprehensive Spectroscopic Analyses of the PN IC2165 with Seimei/KOOLS-IFU 大塚雅昭(京都大学)
10:54	N08a	初代星におけるカルシウムの合成と超金属欠乏星の起源 森寛治(東京大学)	14:00	N20a	前主系列星における彩層活動由来のHeI $\lambda$ 10830吸収線の初検出:近赤外線高分散分光器WINEREDによるTaurus星生成領域中の中質量星の観測 安井千香子(国立天文台)
11:06	N09b	Gaia DR2と分光観測による高速度星の運動の解析 吉岡岳洋(東京大学)	14:12	N21a	外層の剥ぎ取りが赤色超巨星の振動に及ぼす影響 大内竜馬(京都大学)
11:06	N10b	長周期ミラ型変光星OZ Gem, AP Lyn, V837 Herの位置天文観測:周期光度関係に及ぼす銀河の金属量の影響 浦郷陸(鹿児島大学)	14:24	N22a	大質量星エータカリーナからの非熱的X線放射の連星軌道に伴う時間変動 濱口健二(NASA's GSFC/UMBC)
11:06	N11b	二色図を用いたNova V5668 Sgrの電離雲の研究 速見由紀子(鹿児島大学)	14:36	N23a	共生星V694 Monの可視分光観測 安藤和子(岡山理科大学)
11:18	N12b	SN 1987A親星モデルを用いた重力崩壊シミュレーションからの重力波シグナル 中村拓未(福岡大学)			

14:48	N24a	近赤外線 $YJ$ バンドに存在する中性子捕獲元素の吸収線の同定 松永典之(東京大学)	11:30	N35a	超新星のボルツマン輻射流体計算で探る核物質状態方程式の影響 原田了(東京大学)
3月19日(木) 午前・D会場				N36c	大質量星の最終進化段階における非球対称構造が超新星爆発に与える影響 中村航(福岡大学)
09:30	N25a	すばる望遠鏡 COMICS を用いた WR125 の中間赤外低分散分光観測 遠藤いずみ(東京大学)			
09:42	N26a	大質量星とブラックホールからなる相互作用をしない連星の発見(2) 須田拓馬(放送大学)			
09:54	N27a	高速自転する大質量星の3次元重力崩壊シミュレーション:ダイナミクスとニュートリノの解析 柴垣翔太(福岡大学)			
10:06	N28a	一般相対論的ボルツマン方程式の直接解法コード開発 赤穂龍一郎(早稲田大学)			
10:18	N29a	ultra-stripped supernovae の電波放射から迫る連星中性子星形成シナリオへの制限 松岡知紀(京都大学)			
10:30	N30a	星周物質との相互作用で光る突発天体における最大光度と増光時間の関係 鈴木昭宏(国立天文台)			
10:42	N31a	大質量星進化後期における複数回繰り返す爆発的質量放出現象の輻射流体力学シミュレーション 栗山直人(東京大学)			
10:54	N32a	超新星 Cassiopeia A の不完全 Si 燃焼層での中性子過剰度の推定 佐藤寿紀(理化学研究所/NASA's GSFC/UMBC)			
11:06	N33a	vp プロセスによる軽い p 核の生成と太陽系元素組成の起源 西村信哉(京都大学)			
11:18	N34a	多次元計算で探る潮汐破壊された白色矮星の熱核爆発の開始と伝播と元素合成 谷川衝(東京大学)			

## P1. 星・惑星形成(星形成)

3月17日(火) 午後・F会場		3月18日(水) 午前・F会場	
13:24	P101b 銀河面における前主系列星の可視分光探査観測 竹内媛香(埼玉大学)	09:30	P113a 低金属度大質量星の脈動不安定性について 仲内大翼(東北大学)
13:36	P102b へび座分子雲における若い超低質量天体の近赤外分光観測 大出康平(埼玉大学)	09:42	P114a 原始ガス雲内部から放出される Ly $\alpha$ 光子による水素分子形成抑制効果 阿左美進也(筑波大学)
13:36	P103b R CrA 領域における若い超低質量天体の近赤外測光探査 金井昂大(埼玉大学)	09:54	P115a ミニハロー内における乱流の増幅 東翔(甲南大学)
13:36	P104b Ca II 三重輝線と Mg I 輝線を用いた若い恒星の彩層活動の調査 山下真依(兵庫県立大学)	10:06	P116a 初代星形成時における周連星円盤について 織田篤嗣(甲南大学)
	P105c Herbig Be 型星 Z CMa の可視分光モニタリング 秋本妃奈子(兵庫県立大学)	10:18	P117a 3次元磁気流体計算による初代星形成過程 定成健児エリック(東北大学)
	P106c Tタウリ型星 V523 Oriの可視測光・分光観測 福田尚也(岡山理科大学)	10:30	P118a 初期宇宙における低金属量環境下での超大質量星形成 鄭昇明(東北大学)
13:48	P107a FU Ori型星 V960 Monの高分散分光観測 高木悠平(国立天文台)	10:42	P119a 銀河系ハロー星から読み解く宇宙初期における低質量星の形成過程とその変遷 藤本正行(北海道大学)
14:00	P108a Class 0 低質量原始星天体 IRAS 16293-2422 A の内部構造 大屋瑤子(東京大学)	10:54	P120a 初代星形成における原始星周りの円盤進化 木村和貴(京都大学)
14:12	P109a ALMA ACA サーベイで探る Taurus 領域分子雲コア進化の統計的研究(2): 1mm 帯連続波で検出された分子雲コアの内部構造 徳田一起(大阪府立大学/国立天文台)	11:06	P121b The Pop III disk fragmentation: 数値計算による不定性と物理的な依存性 島和宏(京都大学)
14:24	P110a ALMA ACA サーベイで探る Taurus 領域分子雲コア進化の統計的研究(3): ファーストコア候補天体 MC35/L1535NE 藤城翔(名古屋大学)	11:06	P122b 原始星アウトフローの解析モデルの構築と観測との比較 佐藤亜紗子(九州大学)
14:36	P111a An Origin of Misaligned Protoplanetary Disks and Planets 三杉佳明(名古屋大学)	11:06	P123b 磁場に貫かれたフィラメント状分子雲でのコア形成: 落下速度の非等方性 工藤哲洋(長崎大学)
14:48	P112a 連星形成過程におけるアウトフローとジェットの駆動メカニズムの解明 佐伯優(九州大学)	11:18	P124b 磁場に貫かれたフィラメント状分子雲の平衡解: ポリトロピック指数の効果 柏木頼我(総合研究大学院大学)
		11:18	P125b AFGL2591 system の空間分解中間赤外線分光観測 小木美奈子(岡山理科大学)

11:18	P126b VERA を用いた大質量星形成領域 IRAS23385+6053(Mol 160) の位置天文学 濱田翔太(鹿児島大学)	3月19日(木) 午前・F会場
	P127c 銀河系中心 G-0.02-0.07 に付随する分子雲 50MC のホットコアの進化過程 宮脇亮介(桜美林大学)	09:30 P137a BISTRO Project Status (7) Tetsuo Hasegawa (NAOJ)
3月18日(水) 午後・F会場		09:42 P138a BISTRO : 850 $\mu$ m 偏波機能付き “SCUBA-3” カメラの製作 (1) 科学目標 古屋玲(徳島大学)
13:00	P128a ALMA Cycle 6 による重力不安定な円盤を伴う大質量原始星からの分子ガスアウトフロー観測 元木業人(山口大学)	09:54 P139a 分子雲コアの砂時計型磁場: 凍結磁場モデルとコア形成の初期条件について 神鳥亮(アストロバイオロジーセンター)
13:12	P129a Discovery of a Photoionized Outflow toward the Massive Protostar G45.47+0.05 Yichen Zhang (RIKEN)	10:06 P140a 分子雲形成シミュレーションにおける星間媒質の性質 小林将人(大阪大学)
13:24	P130a OMC-2/FIR 6 領域における連続波源と新たなアウトフローの探査 松下祐子(九州大学)	10:18 P141a 乱流による多相星間媒質のフィラメント構造の性質について Pierre Goux(東北大学)
13:36	P131a OMC-3 領域における非常に若い中質量コアの進化段階の解析 森井嘉穂(九州大学)	10:30 P142a 分子雲におけるフィラメント状構造の起源 安部大晟(名古屋大学)
13:48	P132a オリオン領域および Upper Scorpius OB association における若い星の分布 西亮一(新潟大学)	10:42 P143a Massive Core/Star Formation Triggered by Cloud-Cloud Collision III: Effect of Magnetic Field Nirmit Deepak Sakre (Hokkaido University)
14:00	P133a 星の最終質量はどのように決まるのか?: オリオン大星雲領域のコア質量関数からの制限 竹村英晃(総合研究大学院大学/国立天文台)	10:54 P144a 赤外線暗黒星雲 M17 SWex 領域における分子雲衝突の発見 木下真一(東京大学)
14:12	P134a NRO 銀河面サーベイプロジェクト (FUGIN): 巨大分子雲複合体 W43 における高密度ガスと大質量星形成シナリオ III 河野樹人(名古屋大学)	11:06 P145a W40 と Serpens South の星形成 下井倉ともみ(大妻女子大学)
14:24	P135a Searching for hot cores in the Small Magellanic Cloud Sarolta Zahorecz (Osaka Prefecture University/NAOJ)	11:18 P146a 星形成領域における円偏光波に関する輻射輸送シミュレーション 福島肇(筑波大学)
14:36	P136a 大型ミリ波望遠鏡 LMT 50m に搭載した新型 2mm 帯受信機 B4R による系内星形成領域の高感度分子輝線観測 吉村勇紀(東京大学)	

## P2. 星・惑星形成(原始惑星系円盤)

3月16日(月)午後・F会場		3月17日(火)午前・F会場	
13:00	P201a TESS Full Frame Image による dipper サーベイ I. 南半球 田尻智之(東京大学)	09:30	P211a 散発的なガス降着による原始惑星系円盤の成長 花輪知幸(千葉大学)
13:12	P202a TESS Full Frame Image による dipper サーベイ II. 北半球とスペクトル解析 笠木結(総合研究大学院大学)	09:42	P212a 原始惑星系円盤内側領域のデッドゾーン境界近傍におけるガスダイナミクス 岩崎一成(国立天文台)
13:24	P203a ALMA を用いた原始惑星系円盤 HD142527 の 2 波長偏光観測 片岡章雅(国立天文台)	09:54	P213a 永年重力不安定性による原始惑星系円盤の大局的な構造進化 富永遼佑(名古屋大学)
13:36	P204a 原始惑星系円盤の3ミクロン帯散乱光による偏光超過 村川幸史(大阪産業大学)	10:06	P214a 原始惑星系円盤光蒸発の輻射流体計算: 中心星スペクトル型依存性 駒木彩乃(東京大学)
13:48	P205a 非対称な原始惑星系円盤を持つ V1247 Ori におけるダスト成長 後藤光希(東京大学)	10:18	P215a 原始惑星系円盤の消失: 弱乱流円盤での磁気駆動円盤風と光蒸発の競合 國友正信(久留米大学)
14:00	P206a ALMA による遷移円盤内の傾いた内側ガス円盤の検出 眞山聡(総合研究大学院大学)	10:30	P216a ngVLA でスノーラインを観る 奥住聡(東京工業大学)
14:12	P207a ダスト整列と自己散乱の複合モデルによる HL Tau 円盤ミリ波偏光の再解釈 森智宏(東京大学)	10:42	P217a 微惑星の現実的な合体条件 柴田雄(国立天文台)
14:24	P208a Dust Substructure Formation in an Embedded Disk around a Protostar 仲谷峻平(理化学研究所)	10:54	P218a 超木星質量の巨大惑星による離心率を持つギャップの形成と質量降着率への影響 田中佑希(東北大学)
14:36	P209a Collisions of Dust Aggregates with Low to Very High Mass Ratios 長谷川幸彦(東京大学)	11:06	P219a 原始惑星近傍のガス流れ場と周惑星円盤の構造 波々伯部広隆(国立天文台)
14:48	P210a ダスト進化を考慮した原始惑星系円盤の化学構造進化 古家健次(筑波大学)	11:18	P220a 未同定赤外バンド放射から推定するジャコビニ・ツィナー彗星(21P/Giacobini-Zinner)の原始太陽系円盤中での形成領域と温度環境 大坪貴文(宇宙航空研究開発機構)

## P3. 星・惑星形成(惑星系)

3月17日(火)午後・F会場	3月18日(水)午後・I会場
13:00 P221a 磁気圏降着を受ける原始星のスピンダウンについて 高棹真介(国立天文台)	13:00 P301a 内穴外縁からの多様な惑星形成 森川雅博(お茶の水女子大学)
13:12 P222a 周連星円盤における磁場の効果: MRIと三つのアウトフロー 松本倫明(法政大学)	13:12 P302a 単一巨大衛星を持つガス惑星系の形成シナリオ 藤井悠里(名古屋大学)
13:24 P223b 原始惑星系円盤でのガス流が引き起こす高空隙ダストの回転による破壊 辰馬未沙子(東京大学/国立天文台)	13:24 P303a 太陽系辺縁部天体の軌道進化に対する銀河系からの影響 船渡陽子(東京大学)
13:24 P224b ダスト整列由来の熱的偏波放射のダスト空隙率依存性 田崎亮(東北大学)	13:36 P304a 土星リング進化が衛星軌道に与える影響 中嶋彩乃(東京工業大学)
P225c 輻射流体力学シミュレーションのためのオパシティ計算コードの開発 廣瀬重信(海洋研究開発機構)	13:48 P305a 太陽系地球型惑星の大気環境監視ミリ波望遠鏡 SPART が捉える金星大気の一酸化炭素の変動 前澤裕之(大阪府立大学)
	14:00 P306a On the 3-D tomographic analysis of Titan's atmospheric Cyanopolyene (HC <sub>3</sub> N) with ALMA 飯野孝浩(東京大学)
	14:12 P307a HD189733b の X 線、紫外線によるトランジット観測 森岡夏未(奈良女子大学)
	14:24 P308a 軌道歳差を考慮した高温星周りのホットジュピターの存在頻度 渡辺紀治(総合研究大学院大学)
	14:36 P309b トランジット観測によるウォーム・ネプチューン GJ436b の大気調査 西海拓(京都産業大学)
	14:36 P310b 55cmSaCRA 望遠鏡 / MuSaSHI と 36cm 望遠鏡を用いた系外惑星の多波長トランジット測光観測 石岡千寛(埼玉大学)
	14:36 P311b 高解像度流体シミュレーションによる原始ガス惑星への降着流の考察 高棹真介(国立天文台)
	14:48 P312b 周巨大惑星における Liquid Water Belt 3: マグマ層厚の検討 鴨川弘幸(防衛大学校)

14:48	P313b 多地点流星電波観測による10月りゅう座流星群とふたご座流星群の比較 石村周平(茨城大学)	10:42	P324a 巨大衝突によって形成される惑星系の軌道構造の中心星質量依存性 星野遥(東京大学)
14:48	P314b 近赤外線分光観測による小惑星母天体の内部構造探査 臼井文彦(神戸大学)	10:54	P325a 大気を持つ天体同士の巨大衝突がもたらす大気損失と角運動量変化 黒崎健二(名古屋大学)
	P315c ALMA 12m-Array/ACA/TP 同時観測による金星中層大気微量分子観測のミッシングフラックスの評価 富原彩加(大阪府立大学)	11:06	P326a 巨大衝突起源の破片円盤との相互作用による地球型惑星の軌道進化 小林浩(名古屋大学)
	P316c 彗星のガス輝線の空間構造のAbel変換による解析: 46P/Wirtanen 彗星 長谷川隆(群馬県立ぐんま天文台)		
	P317c 近赤外中分散エシエル分光器による金星大気物質循環へのアプローチ 前澤裕之(大阪府立大学)		
3月19日(木) 午前・I会場			
09:30	P318a 視線速度を用いた長周期連星ブラックホールの探査の提案と検証II 林利憲(東京大学)		
09:42	P319a Investigating stellar jitter with asteroseismic observations in searching for exoplanets around G/K-type evolved stars Huan-Yu Teng (Tokyo Institute of Technology)		
09:54	P320a IRD-SSPによるM型星周りの惑星サーベイ: 1年目の観測ステータス 大宮正士(アストロバイオロジーセンター)		
10:06	P321a すばる望遠鏡における高分散分光コロナグラフ REACH によるサイエンス 河原創(東京大学)		
10:18	P322a 重カマイクロレンズ法を用いた Xallarap 効果による銀河系バルジの短周期惑星の検出実現性 宮崎翔太(大阪大学)		
10:30	P323a ガス惑星の大気散逸過程における遠紫外線光電加熱の効果 三谷啓人(東京大学)		



## Q. 星間現象

3月16日(月) 午後・G会場		3月17日(火) 午前・G会場	
13:00	Q01a X線天文衛星Chandraによる超新星残骸 Puppis Aの衝撃波固有運動の測定 今井悠喜(埼玉大学)	09:30	Q13a ASTEによる800GHz帯のC <sub>1</sub> -CO初期観測データの解析と考察 福井康雄(名古屋大学)
13:12	Q02a X線ガンマ線観測を用いた若い超新星残骸における粒子加速効率の研究 辻直美(立教大学)	09:42	Q14a ASTE望遠鏡によるCI( <sup>3</sup> P <sub>1</sub> - <sup>3</sup> P <sub>0</sub> ), <sup>13</sup> CO(J=3-2)データを用いた、Quintuplet cluster 周辺環境の研究 関健太郎(名古屋大学)
13:24	Q03a 宇宙線変調衝撃波からの偏光H $\alpha$ 放射について 霜田治朗(名古屋大学)	09:54	Q15a いて座Aにおける20 km s <sup>-1</sup> 雲と 50 km s <sup>-1</sup> 雲の分子雲衝突 榎谷玲依(名古屋大学)
13:36	Q04a young から middle-aged の超新星残骸からの非熱的放射についての統一モデルの構築に向けて 小橋亮介(京都大学)	10:06	Q16a 銀河系中心部の $l = 1^\circ.3$ 分子雲複合体における分子雲衝突 II 松永健汰(名古屋大学)
13:48	Q05a 超新星残骸中で生成された二次宇宙線原子核の逃走とそのエネルギースペクトル 川中宣太(京都大学)	10:18	Q17a 電離領域 Sh2-231, Sh2-233 の星形成 藤田真司(名古屋大学)
14:00	Q06a 非一様媒質中を伝播する衝撃波による粒子加速 横山将汰(東京大学)	10:30	Q18a 高分解能 HI で探る, 小マゼラン雲の N84 領域における大質量星形成シナリオ 大野峻宏(名古屋大学)
14:12	Q07a スーパーバブルにおける宇宙線加速 安田晴皇(京都大学)	10:42	Q19a 中間速度 HI 雲 IV Arch の重元素量 早川貴敬(名古屋大学)
14:24	Q08a 初代宇宙線の加速と逃走 大平豊(東京大学)	10:54	Q20a ALMA 高分解能観測で見た分子雲の縁における CO/C <sub>1</sub> の構造 立原研悟(名古屋大学)
14:36	Q09a 連星中性子星合体残骸の核ガンマ線探査 寺田幸功(埼玉大学)	11:06	Q21a NRO 銀河面サーベイプロジェクト (FUGIN):BDI を用いた天の川銀河における分子ガス構造の解析 大塚宏樹(筑波大学)
14:48	Q10b すざく衛星で観測した超新星残骸Kepler, Tycho, CasA のSi-K 吸収端付近のX線スペクトル構造 岡崎貴樹(大阪大学)	11:18	Q22a 銀河系円盤部で見えられた広速度分子ガス成分 CO 16.13-0.55 の起源 横塚弘樹(慶應義塾大学)
14:48	Q11b オリオン座A分子雲周辺に分布するダストの光学的特性 上原隼(桐朋中学校・高等学校/東京学芸大学)	11:30	Q23b 中性水素ガス衝突による大質量星団形成の理論的研究 前田龍之介(名古屋大学)
14:48	Q12b 銀河系中心におけるプロミネンス上昇の磁気流体シミュレーション 富吉拓馬(千葉大学)	Q24c	鹿島-日立 VLBI による核融合開始直後の大質量星に付随する極小 HII 領域の大規模探査 小倉達也(山口大学)

## Q. 星間現象

3月17日(火) 午後・G会場		3月18日(水) 午前・G会場	
13:00	Q25a 「すざく」とXMM-Newton衛星で同時検出した地球周辺の電荷交換X線発光 伊師大貴(首都大学東京)	09:30	Q35a 大質量星形成領域Sagittarius B2(M)におけるCH <sub>3</sub> NCOの検出 大野有紀(東京理科大学)
13:12	Q26a ALMAによる大マゼラン雲の超新星残骸N49の観測(II) 山根悠望子(名古屋大学)	09:42	Q36a すばる望遠鏡MOIRCSとGaia衛星による銀河面拡散X線放射の起源探査 森鼻久美子(名古屋大学)
13:24	Q27a 大マゼラン雲の重元素量分布と銀河間相互作用 柘植紀節(名古屋大学)	09:54	Q37a 銀河中心拡散X線放射の硬X線成分 信川正順(奈良教育大学)
13:36	Q28a 30 Doradus複合領域における中性鉄輝線の調査(2) 信川久実子(奈良女子大学)	10:06	Q38a 豪州気球実験SMILE-2+のMeVガンマ線光度曲線からみる銀河中心領域 水村好貴(宇宙航空研究開発機構)
13:48	Q29a 超新星フィードバックの金属量依存性 奥裕理(大阪大学)	10:18	Q39a 豪州気球実験SMILE-2+のMeVガンマ線空間分布からみる銀河中心領域 吉川慶(京都大学)
14:00	Q30a 可視光減光量による銀河スケールの厚いダストディスクの発見 土橋一仁(東京学芸大学)		
14:12	Q31a 天の河銀河高温ガスハローによる高速電波バーストの分散指標への寄与 山崎翔太郎(東京大学)		
14:24	Q32a Diffuse X-ray Background Spatial-Fluctuation Anisotropy in Suzaku Observations Yu Zhou (JAXA/ISAS)		
14:36	Q33a Cosmic Amorphous Dust: 地上に存在しない特異な物性を持つ新種のアモルファス物質が星間空間に存在する可能性 梨本真志(東北大学)		
14:48	Q34b X線天文衛星「すざく」で観測した彗星における電荷交換反応モデルの検証 鈴木光(首都大学東京)		

## R. 銀河

3月18日(水) 午前・G会場		3月18日(水) 午後・G会場	
10:30	R01a 統計平衡計算による NGC 3627 の bar-end における星形成活動性の起源の探求 柴田和樹(筑波大学)	13:00	R13a NRO レガシープロジェクト COMING (28): 空間分解した星質量-星形成率関係から見る銀河内部での星形成活動と分子ガスの割合 梶川明祐実(北海道大学)
10:42	R02a Simulating NGC4303 and NGC3627: Barred Spiral Galaxies – Interacting and Isolated Elizabeth J. Iles (Hokkaido University)	13:12	R14a ALMA による渦巻銀河 M33 の巨大分子雲の高分解能観測 (4): 星形成が不活発な巨大分子雲の性質 近藤滉(大阪府立大学)
10:54	R03a Should we be asking molecular clouds how spiral arms are made? Alexander Robert Pettitt (Hokkaido University)	13:24	R15a スターバースト銀河 NGC1808 における分子ガス, 巨大分子雲の性質 矢島義之(北海道大学)
11:06	R04b Gaseous Disc in a Triaxial Dark Matter Halo Ying Zhang (Hokkaido University)	13:36	R16a NGC253 中心におけるループ状分子ガスの観測的研究 小西諒太郎(大阪府立大学)
11:06	R05b 銀河シミュレーションによる、分子雲の衝突速度と乱流状態 堀江秀(北海道大学)	13:48	R17a NGC1068 の off-nuclear メーザー分布領域における高密度分子ガスの物理状態 萩原喜昭(東洋大学)
11:06	R06b 輻射輸送計算による銀河円盤の電波帯疑似観測 田嶋裕太(九州大学)	14:00	R18a ASTE による近傍棒渦巻銀河 M83 の sub-kpc スケール [Cl]( $^3P_1-^3P_0$ )輝線観測 保田敦司(筑波大学)
11:18	R07b 棒渦巻銀河 M83 の渦状腕と棒状構造での分子ガスの密度構造の違い 八嶋裕(北海道大学)	14:12	R19a Spatially-resolved [Cl] study in Arp 220 Junko Ueda (NAOJ)
11:18	R08b NRO レガシープロジェクト COMING(29): 近傍銀河における星間ガス中の分子ガス率の動径分布 小松崎龍聖(筑波大学)	14:24	R20a ALCHEMI survey: a comprehensive extragalactic spectra scan in an archetypal starburst galaxy NGC 253 原田ななせ(台湾中央研究院)
	R09c High angular resolution imaging of millimeter recombination line toward the NGC 253 nuclear starburst 中西康一郎(国立天文台)	14:36	R21a スターバースト銀河 M82 の銀河風領域における重元素の輝度分布 八木雄大(東京大学)
	R10c Recovering extended structures in merger remnants Junko Ueda (NAOJ)	14:48	R22a SuGOHI: Search for strong gravitational lenses from the HSC Survey Anton Timur Jaelani (Kindai University)
	R11c 新たな GeV ガンマ線源 スターバースト銀河 Arp299 の検出 古田智也(東海大学)		
	R12c 近傍の早期型銀河の球状星団系と親銀河の性質の関係 隈井泰樹(熊本学園大学)		

## S. 活動銀河核

3月19日(木) 午前・G会場		3月16日(月) 午後・E会場	
09:30	R23a 渦状腕形成機構: スイング増幅によるエピサイクル位相の同期 道越秀吾(京都女子大学)	13:00	S01a The jet and resolved features of the central supermassive black hole of M87 observed with EHT 三好真(国立天文台)
09:42	R24a 渦状腕形成の素過程のシミュレーション 吉田雄城(東京大学/国立天文台)	13:12	S02a 多波長の一般相対論的輻射輸送計算: ブラックホール・シャドウと電波からX線・ガンマ線までの輻射スペクトル 川島朋尚(国立天文台)
09:54	R25a N体シミュレーションによって示唆される高次のバー共鳴由来の Hercules stream 朝野哲郎(東京大学)	13:24	S03a 活動銀河核ジェット的一般相対論的理想MHD 近似解の構築 荻原大樹(東北大学)
10:06	R26a CfA・FUGINによるCO観測データと銀河系3次元理論計算の比較による銀河系内部構造の研究 渡邊祐也(筑波大学)	13:36	S04a 電子イオン2温度磁気流体計算による3次元AGNジェット伝搬数値実験: FRIIジェットにおけるローブ圧/外圧に対するイオンの寄与 大村匠(九州大学)
10:18	R27a すばる望遠鏡 Hyper Suprime-Camを用いた銀河系中心方向のダスト減光の研究 鈴木大介(宇宙航空研究開発機構)	13:48	S05a 活動銀河ジェット根元から終端にいたる磁場強度の系統解析と示唆 伊藤颯一郎(早稲田大学)
10:30	R28a S0-2近点通過時のすばる望遠鏡による分光観測データを用いた銀河系中心ブラックホール周囲の暗黒質量の総量への制限 孝森洋介(和歌山工業高等専門学校)	14:00	S06a Coronal Magnetic Activity in nearby Active Supermassive Black Holes 井上芳幸(理化学研究所)
10:42	R29a 銀河系中心巨大ブラックホール近傍の赤色巨星の金属量測定 西山正吾(宮城教育大学)	14:12	S07a サブ秒角からマイクロ秒角の角度分解能のX線撮像を目指す MIXIM: 近傍活動銀河核の観測に向けて 林田清(大阪大学)
10:54	R30a Sub-millimeter Detection of a Galactic Center Cool Star IRS 7 by ALMA Masato Tsuboi (JAXA/ISAS)	14:24	S08a 回転天体の重力レンズ方程式の導出とその活動銀河核マイクロスコプとしての応用可能性 服部誠(東北大学)
		14:36	S09a 那須電波干渉計が捉えた2019年のCyg X-3 巨大フレア 大師堂経明((一社)電波天文学研究会)
		14:48	S10a ALMAによる銀河系中心核 Sgr A* の230 GHz 帯光度変動解析 岩田悠平(慶應義塾大学)
		15:00	S11b How far is the real distance between Sgr A* and IRS 13E3? Masato Tsuboi (JAXA/ISAS)

15:00	S12b	M87 ジェット根元の局所的な電子陽電子対プラズマ注入領域からの放射は EHT で観測されたリング・イメージを再現するのか？ 川島朋尚（国立天文台）	10:06	S23a	ALMA による近傍活動銀河核 NGC 7469 中心領域の熱源診断 中野すずか（総合研究大学院大学/国立天文台）
15:00	S13b	High resolution imaging of the molecular torus in NGC 1052 with VLBI Satoko Sawada-Satoh (Yamaguchi University)	10:18	S24a	Spitzer/IRS による埋もれた AGN のシリケートダストの系統的研究 土川拓朗（名古屋大学）
15:12	S14b	A survey of new Changing-Look Quasar 名越俊平（京都大学）	10:30	S25a	CO 振動回転遷移吸収線の速度変動解析に基づく超高光度赤外線銀河 IRAS 08572+3915 における活動銀河核分子トーラス内部構造の考察 大西崇介（東京大学/宇宙航空研究開発機構）
15:12	S15b	Subaru HSC COSMOS 時間軸サーベイデータを用いた光度変動 AGN サンプルの構築 小久保充（東北大学）	10:42	S26a	AGN と SN フィードバックを考慮した活動銀河核の遮蔽構造 川勝望（呉工業高等専門学校）
15:12	S16b	Stripe 82X 多波長カタログを用いた遠方電波銀河の探査 瀬戸口健太（京都大学）	10:54	S27a	Reverberation Measurements of the Inner Radii of the Dust Tori in Quasars 峰崎岳夫（東京大学）
	S17c	クランピートーラスからの X 線スペクトルモデルによる Compton-thick AGN の広帯域 X 線スペクトル系統解析 谷本敦（京都大学）	11:06	S28a	MaNGA survey データで探る NLR 形成に与える AGN 活動の影響 城知磨（愛媛大学）
	S18c	NuSTAR Discovery of a Compton-thick Dust-obscured Galaxy WISEJ0825+3002 鳥羽儀樹（京都大学）	11:18	S29a	MUSE/Narrow-Field-Mode を用いた I Zw 1 の高速ガス噴出領域の大きさへの制限 川口俊宏（尾道市立大学）
	S19c	BAL の変動率とクェーサーの物理量との相関関係 堀内貴史（国立天文台）	11:30	S30a	クェーサー広輝線領域の [Mg/Fe] 組成比診断：Baldwin effect の評価 鮫島寛明（東京大学）
3 月 17 日（火）午前・E 会場					
09:30	S20a	時間変動解析を用いた電波銀河 3C120 の X 線スペクトル成分分解 服部兼吾（大阪大学）			
09:42	S21a	超/高光度赤外線銀河が持つ活動銀河核の広帯域 X 線スペクトル解析 山田智史（京都大学）			
09:54	S22a	すばる望遠鏡赤外線多色撮像観測による合体銀河中の複数 AGN の探査 今西昌俊（国立天文台）			

## T. 銀河団

## U. 宇宙論

3月16日(月) 午後・H会場		3月19日(木) 午前・A会場	
13:00	T01a 乱流と AGN による銀河団コアの非定常加熱 藤田裕(大阪大学)	09:30	U01a 銀河スピン分布: SDSS 銀河サンプルの双極子異方性 家正則(国立天文台)
13:12	T02a フェニックス銀河団の冷却コア(1) ATCA による AGN ジェットの初解像 赤堀卓也(国立天文台)	09:42	U02a 銀河系矮小銀河を用いた ultra-light axion dark matter への制限 林航平(東京大学)
13:24	T03a フェニックス銀河団の冷却コア(2) ALMA による SZ 効果の高解像度測定 北山哲(東邦大学)	09:54	U03a 摂動論的手法の検証と HSC 初年度データからの宇宙論パラメタの制限 杉山素直(Kavli IPMU)
13:36	T04a 銀河団外縁部の観測に対する前景放射の影響の評価 III 杉山剣人(東京理科大学)	10:06	U04a 宇宙大規模構造のアンチエイジング: 密度場再構築後の赤方偏移空間での質量パワースペクトルの摂動論 日影千秋(Kavli IPMU)
13:48	T05a A2199 銀河団の外縁部に存在するガス塊の探査 上田将暉(東京理科大学)	10:18	U05a 21cm 線強度マッピングの前景放射除去に関する研究 西澤淳(名古屋大学)
14:00	T06a HSC-SSP 領域内の可視光で選択された衝突銀河団の X 線フォローアップ計画 田中桂悟(金沢大学)	10:30	U06a POLARBEAR 実験による数度スケールの CMB 偏光ゆらぎ観測結果 高倉理(Kavli IPMU)
14:12	T07a BARYON BUDGET IN THE XXL CLUSTERS 秋野大知(広島大学)	10:42	U07a CMB レンズング解析における観測誤差の伝搬 永田竜(高エネルギー加速器研究機構)
14:24	T08a 銀河団からの電磁波・ニュートリノ放射の1次元モデリング 西脇公祐(東京大学)	10:54	U08a 陽子はどのようになっているか。電子はどのようになっているか。その事を検証するために、「高エネルギー加速器で、陽子と陽子を衝突させたときどのようになるか」を用いる。 小堀しづ
14:36	T09b へびつかい座超銀河団における銀河の形態分類 平沼愛美(日本女子大学)	11:06	U09b 原子核はどのようであるか。それを調べる検証方法 小堀しづ
			U10c 宇宙を作動するものは何か。 小堀しづ

## V1. 観測機器 (電波)

3月16日(月)午後・C会場		14:48	V114b 大阪府大 1.85 m 望遠鏡 230, 345 GHz 帯 CO 同位体 6 輝線の同時観測に向けた広帯域受信機システムの開発 増井翔(大阪府立大学)
13:00	V101a Update on ALMA Operations and Development Program – Spring 2020 Alvaro Gonzalez (NAOJ)	14:48	V115b 多輝線同時観測のための 200 GHz 帯導波管型マルチプレクサの開発2 中島拓(名古屋大学)
13:12	V102a ALMA: frineg phase calibration (4): high frequency long baseline capability 朝木義晴(NAOJ/JAO)		V116c 野辺山 45 m 電波望遠鏡における 3 帯域同時観測に向けた TZ 受信機の改修 甘利涼湖(山口大学)
13:24	V103a ALMA 受信機用広帯域光学系コンポーネントの開発 (III) 金子慶子(国立天文台)	15:00	V117a 高感度ミリ波受信機の開発に向けた LO 信号由来の受信機雑音の低減 入山奨基(名古屋大学)
13:36	V104a A Compact 4-beam Dual-polarization Balanced SIS Receiver Frontend at ALMA Band 4 Wenlei Shan (NAOJ)	3月17日(火)午前・C会場	
13:48	V105a ASTE Band 10 受信機(787 – 950 GHz) システム評価および科学評価試験結果 浅山信一郎(国立天文台)	09:30	V118a CMB 偏光観測衛星 LiteBIRD ミッション定義フェーズ IV 堂谷忠靖(宇宙航空研究開発機構)
14:00	V106a LMT 50 m 鏡用 2 ミリ受信機システムの開発と爆発的星形成銀河、巨大ブラックホールの研究 V: 科学評価試験 川邊良平(国立天文台)	09:42	V119a LiteBIRD 低周波望遠鏡スケールモデルのコンパクトレンジ測定 高倉隼人(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
14:12	V107a NASCO 計画の開発進捗: 全体の報告 山本宏昭(名古屋大学)	09:54	V120a CMB 偏光観測実験 GroundBIRD – 天体を用いた観測地での性能評価 – 沓間弘樹(東北大学/理化学研究所)
14:24	V108b NASCO 計画の開発進捗: 搭載作業とファーストライト 藤城翔(名古屋大学)	10:06	V121a POLARBEAR-2/Simons Array 実験 – 本観測に向けた観測機器コミッショニング状況 長谷川雅也(高エネルギー加速器研究機構)
14:24	V109b NASCO 受信機の開発進捗: ビーム性能評価 阪本茉莉子(名古屋大学)	10:18	V122a POLARBEAR-2a の高温黒体放射光源を利用した検出器データの検証と較正 金子大輔(東京大学)
14:24	V110b ニューラルネットワークによる風データを用いた ASTE の指向誤差の推定 植村誠(広島大学)	10:30	V123a POLARBEAR-2a の検出器アレイ特性評価のための偏光ミリ波回転発振装置の開発 廣瀬開陽(横浜国立大学)
	V111c ASTE の運用 (4) 阪本成一(国立天文台)	10:42	V124a 次世代マイクロ波背景放射偏光観測実験 Simons Observatory の開発状況 桜井雄基(Kavli IPMU)
14:36	V112a 1.85 m 電波望遠鏡 / 受信機制御のためのシステム開発進捗 上田翔汰(大阪府立大学)		
14:48	V113b 210 – 375 GHz 帯 広帯域コルゲートホーンの開発 山崎康正(大阪府立大学)		

## V1. 観測機器

10:54	V125a Al-NbTiN ハイブリッドMKIDを用いた野辺山45 m電波望遠鏡用 100-GHz 帯カメラの光学特性評価 樋川遼太郎(筑波大学)	14:36	V137b MWA によるバイスタテックレーダによるスペースデブリ探査 小林秀行(国立天文台)
11:06	V126a 野辺山 45 m 電波望遠鏡搭載用 100-GHz 帯電波カメラの多素子同時読み出しシステムを用いた感度評価 鈴木隆司(筑波大学)	14:36	V138b JAXA 深宇宙探査用 54m アンテナ開発の現状(その3) 村田泰宏(宇宙航空研究開発機構)
11:18	V127b 月の観測による POLARBEAR-2a の sidelobe の評価 高倉理(Kavli IPMU)	V139c VERA-upgrade for EAVN and GVLBI 計画の進捗 V 小山友明(国立天文台)	
11:18	V128b 単一鏡観測装置開発のための共通データ解析ソフトウェアの開発 谷口暁星(名古屋大学)	14:36	V140b 電波点回折干渉計のための超伝導回路を用いた相関型偏波計の設計 永井誠(国立天文台)
3月17日(火) 午後・C会場		14:48	V141b テラヘルツ強度干渉計を実現する極低温回路技術の開発 松尾宏(国立天文台)
13:00	V129a ミリ波補償光学の開発 III. 開口面干渉型波面センサの概要 田村陽一(名古屋大学)	14:48	V142b テラヘルツ光子計数システムの実現に向けた SIS 検出器の開発-II 江澤元(国立天文台)
13:12	V130a ミリ波補償光学の開発 IV. 波面センサ用送信機サブシステムの開発と評価 深作悠平(筑波大学)	14:48	V143b 火星探査 MACO 計画におけるテラヘルツヘテロダイン分光器と放射輸送シミュレーションによる検討 前澤裕之(大阪府立大学)
13:24	V131a SKA プロジェクトへの参加計画 小林秀行(国立天文台)	V144c 分子分光装置 SUMIRE の開発: 光学系の改良と 200 GHz 帯 SIS 受信機を用いた測定結果 佐藤龍彦(電気通信大学)	
13:36	V132a SKA プロジェクトに向けた技術検討状況 河野裕介(国立天文台)		
13:48	V133a SKA プロジェクトに向けた科学検討 3 廣田朋也(国立天文台)		
14:00	V134a 広帯域フィードの開発(XVII) 氏原秀樹(情報通信研究機構)		
14:12	V135a 低周波電波天文観測への誘い - 東北大学の取組: 現在~近未来 - 三澤浩昭(東北大学)		
14:24	V136a 327MHz 帯域における惑星間空間シンチレーション観測のための次世代装置の開発検討 岩井一正(名古屋大学)		



## V2. 観測機器 (光赤外・重力波・その他)

3月16日(月) 午後・D会場		15:00	V213b 西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用 伊藤洋一(兵庫県立大学)
13:00	V201a すばる望遠鏡・観測提案書管理システム ProMS の変遷と今後の展望 山野井瞳(国立天文台)	15:00	V214b なゆた望遠鏡の可視光分光器に搭載する 新 CCD カメラの性能評価 井上和也(兵庫県立大学)
13:12	V202a SuMIRe-PFS[19]: プロジェクト概要と装置 開発進捗状況まとめ 2020 年春季 田村直之(Kavli IPMU)	V215c 純圧電材可変形鏡の開発 大屋真(国立天文台)	
13:24	V203a すばる望遠鏡・超広視野主焦点カメラ (HSC) のデータを用いた時間変動天体 の系統的探索 青山尚平(国立天文台)	3月17日(火) 午前・D会場	
13:36	V204a REACH プロジェクト: 超高コントラストと 高分散分光を組み合わせたすばる望遠 鏡での系外惑星直接撮像分光について 小谷隆行(アストロバイオロジーセンター/ 国立天文台/総合研究大学院大学)	09:30	V216a 1.8m 軸外し望遠鏡 PLANETS による高 コントラスト観測: 現状と展望 坂野井健(東北大学)
13:48	V205a 低ノイズ・大面積・バタブル・国産 InGaAs 近赤外線イメージセンサーの開発 中屋秀彦(国立天文台)	09:42	V217a 1.8m 軸外し望遠鏡 PLANETS の主鏡支持 構造の開発状況 鈴木駿久(東北大学)
14:00	V206a 補償光学系波面センサーによる大気ゆらぎ の高さ分布のリアルタイム推定 大金原(東北大学)	09:54	V218a 中間赤外線冷却中空ファイバーの開発 I 平原靖大(名古屋大学)
14:12	V207a TMT 計画 - 進捗報告 臼田知史(国立天文台)	10:06	V219a MuSCAT を用いたトランジット観測用ディ フューザー性能試験観測 西海拓(京都産業大学)
14:24	V208a TMT/NFIRAOS/IRIS の周波数空間に おける振動解析 鈴木竜二(国立天文台)	10:18	V220a 深層学習を用いた MITSuME 望遠鏡画像 からの突発天体検知(2) 飯田康太(東京工業大学)
14:36	V209a TMT 可視広視野多天体分光装置 WFOS 用面分光ユニットの概念検討 尾崎忍夫(国立天文台)	10:30	V221a ファイバー型面分光装置 KOOLS-IFU せいめい望遠鏡への接続 松林和也(京都大学)
14:48	V210b サイエンスブック「すばる望遠鏡と TMT で結ぶ新たな宇宙像」の制作 青木和光(国立天文台)	10:42	V222b 点回折干渉計方式を用いた補償光学用 波面センサの開発 津久井遼(京都大学)
14:48	V211b HSC カタログデータ検索高速化に向けた データベースの応用 古澤順子(国立天文台)	10:42	V223b 1.8m 軸外し望遠鏡 PLANETS による高 ダイナミックレンジ観測 鍵谷将人(東北大学)
14:48	V212b 焦点面像を用いた補償光学装置の非共 通光路収差の推定法の評価 大本薫(東北大学)	10:42	V224b 茨城大学における太陽観測システムの 開発と SHABAR 観測 野澤恵(茨城大学)
			V225c Thermal Modeling of the Focus Position of the NAOJ 188-cm Telescope (II) 浮田信治(国立天文台)

	V226c 放物面柱反射鏡と柱状レンズとを有する光学システム 浅利栄治(東京農業大学)	14:12	V238a 気球望遠鏡を用いた高解像度・高波長分解 [CII] マッピング観測のための Blocked-Impurity-Band 型遠赤外線アレイ検出器の開発 齋藤太志(名古屋大学)
10:54	V227a 小型JASMINE計画の全般的進捗状況 郷田直輝(国立天文台)		
11:06	V228a 小型JASMINEの解析パイプラインの開発 山田良透(京都大学)	14:24	V239a 超小型衛星用紫外線CMOSイメージセンサの特性評価 小川風太(東京工業大学)
11:18	V229b 小型JASMINE衛星の要素技術検証 V 上田暁俊(国立天文台)	14:36	V240a SUNRISE-3 大気球太陽観測実験:高精度近赤外線偏光分光装置 SCIP に搭載する偏光変調ユニットの開発 久保雅仁(国立天文台)
11:18	V230b 小型JASMINE非球面ミラー用DOE干渉計の開発1 鹿島伸悟(国立天文台)		
11:18	V231b JASMINEの星像高精度位置決定のための実証実験 矢野太平(国立天文台)	14:48	V241b Solar-C_EUVST望遠鏡構造熱設計進捗報告 末松芳法(国立天文台)
		14:48	V242b 超高精度太陽センサー「UFSS」研究開発状況 長谷川隆祥(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
3月17日(火) 午後・D会場			
13:00	V232a SPICA(次世代赤外線天文衛星):日欧共同推進によるPhase A 検討の現状 芝井広(大阪大学)		V243c 宇宙赤外線背景放射観測ロケット実験 CIBER-2:1st フライトに向けた光学試験および較正試験 瀧本幸司(関西学院大学)
13:12	V233a 日欧技術検討チームによるSPICA フェーズ A 概念検討の現状 松原英雄(宇宙航空研究開発機構)		
13:24	V234a SPICA 搭載中間赤外線観測装置 SMI のフェーズ A の技術開発の進捗 磯部直樹(宇宙航空研究開発機構)		
13:36	V235a SPICA/SMI 搭載中間赤外線 Immersion grating:材料選定のための極低温でのCdZnTeの透過率測定 前嶋宏志(東京大学/宇宙航空研究開発機構)		
13:48	V236a SPICA 搭載ジュール・トムソン冷凍機用「直線型熱交換器」の性能評価 福岡遥佳(東京大学)		
14:00	V237a 軸外シセグメント望遠鏡による太陽系外惑星の高コントラスト撮像のための4次コロナグラフ 伊藤哲司(大阪大学)		

## V3. 観測機器 (X線・γ線)

3月18日(水) 午前・C会場		11:06	V313b 探査機搭載を目指した超小型 X 線蛍光分析 3D 撮像システムの開発 石倉彩美(大阪大学)
09:30	V301a X 線分光撮像衛星 XRISM 搭載 X 線望遠鏡 (XMA) 開発の現状 (3) 林多佳由 (NASA's GSFC/UMBC)	3月18日(水) 午後・C会場	
09:42	V302a X 線分光撮像衛星 (XRISM) 搭載軟 X 線撮像装置の開発の現状 (3) 内田裕之(京都大学)	13:00	V314a ダークバリオン探査ミッション Super DIOS の開発へ向けた検討 V 佐藤浩介(埼玉大学)
09:54	V303a XRISM 搭載軟 X 線撮像装置 Xtend のフライト用 CCD 素子の性能評価 金丸善朗(宮崎大学)	13:12	V315a 電鍍技術を用いた飛翔体搭載用高角度分解能多重薄板型 X 線望遠鏡の開発 (2) 竹原佑亮(名古屋大学)
10:06	V304b XRISM 搭載 Xtend の新しい CTI 補正方法の検討 齋藤真梨子(奈良女子大学)	13:24	V316a X線偏光観測衛星 IXPE への参加現状 (5) 玉川徹(理化学研究所)
10:06	V305b XRISM 搭載 Xtend の Grade-dependent offset 補正の調査 迫聖(奈良教育大学)	13:36	V317a X 線偏光観測衛星 IXPE 搭載 X 線望遠鏡用受動型熱制御素子サーマルシールドの開発 (6) 山口友洋(名古屋大学)
10:06	V306b XRISM 搭載 Xtend の応答関数の調査 花岡真帆(大阪大学)	13:48	V318a シミュレーションを用いた IXPE 衛星による広がった天体の X 線偏光解析手法の研究 山本龍哉(広島大学)
10:18	V307a X 線分光撮像衛星 XRISM 搭載 CCD 検出器のためのパイルアップの分析と補正アルゴリズムの開発 丹波翼(東京大学)	14:00	V319a CMOS イメージセンサを用いた硬 X 線撮像偏光計の開発 II 畠内康輔(東京大学)
10:30	V308a X 線分光撮像衛星 XRISM 搭載 Resolve の開発の現状 V 石崎欣尚(首都大学東京)	14:12	V320a 湾曲 Si 結晶を用いたブラッグ反射型偏光計の偏光性能評価 芳野史弥(中央大学)
10:42	V309a X 線撮像分光衛星 XRISM 搭載 Resolve 用ゲートバルブの X 線透過率測定 御堂岡拓哉(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	14:24	V321a 炭素繊維強化プラスチック (CFRP) への X 線反射面形成法の開発 IV 栗木久光(愛媛大学)
10:54	V310a X 線衛星 Chandra 搭載半導体検出器 ACIS の粒子バックグラウンドスペクトルの時間・空間変動のモデリング 鈴木寛大(東京大学)	14:36	V322a 超薄膜グラフェンを用いた飛翔体搭載用軟 X 線光学素子の開発 (2) 三石郁之(名古屋大学)
11:06	V311b 飛翔体搭載用高性能電鍍 X 線反射鏡支持機構の開発 瀧川歩(名古屋大学)	14:48	V323a 多重像 X 線干渉計 MIXIM の開発 - サブサブ秒角 X 線撮像の達成 - 朝倉一統(大阪大学)
11:06	V312b 微小ピクセル CMOS センサー動作ボードと X 線イベント検出・バックグラウンド除去のアルゴリズム開発 佐久間翔太郎(大阪大学)		V324c 硬 X 線偏光観測実験 XL-Calibur 気球の 2021 年フライトへ向けた準備状況 高橋弘充(広島大学)

## W. コンパクト天体

	V325c MAXI/GSC 突発天体発見システムの詳細天体画像表示機能の開発 丸山和貴子(日本大学)	3月17日(火) 午前・H会場	
		09:30	W01a 高金属量散開星団起源の連星ブラックホールによる重力波検出率への寄与 熊本淳(東京大学)
3月19日(木) 午前・C会場		09:42	W02a Gravitational wave mergers from von Zeipel-Lidov-Kozai oscillations of binary black holes in galactic nuclei Alessandro A. Trani (The University of Tokyo)
09:30	V326a 地球磁気圏 X線撮像計画 GEO-X (GEOspace X-ray imager) の現状 II 江副祐一郎(首都大学東京)		
09:42	V327a 軟X線から硬X線の広帯域を高感度で撮像分光する小型衛星計画 FORCE の現状(10) 森浩二(宮崎大学)	09:54	W03a P <sup>3</sup> T法を用いた球状星団起源の連星形成シミュレーション 吉成直都(東京大学)
09:54	V328a SOI 技術を用いた新型 X線撮像分光器の開発 41: 現在の到達点と今後の開発 鶴剛(京都大学)	10:06	W04a Gaia による恒星質量ブラックホールの観測可能性 鹿内みのり(東京大学)
10:06	V329a ガンマ線バーストを用いた初期宇宙・極限時空探査計画 HiZ-GUNDAM の進捗 米徳大輔(金沢大学)	10:18	W05a MAXI/GSCによる銀河系ハローのBH連星 MAXI J0637-430の発見と、2019年度後半の突発現象 三原建弘(理化学研究所)
10:18	V330a 重力波源 X線対応天体探査計画 Kanazawa-SAT <sup>3</sup> フライトモデルの分光性能評価 澤野達哉(金沢大学)	10:30	W06a 多重コンプトン散乱込みの一般相対論的6次元輻射輸送計算コードの開発 小川拓未(東北大学)
10:30	V331a Cherenkov Telescope Array (CTA) 計画: 全体報告(17) 野田浩司(東京大学)	10:42	W07a ボルツマン方程式を解く超臨界降着流の一般相対論的 MHD シミュレーション 朝比奈雄太(筑波大学)
10:42	V332a CTA 大口径望遠鏡初号機における波形サンプリング時間幅較正および 2-4 号機用カメラの組立・品質管理 野上優人(茨城大学)	10:54	W08a 恒星質量ブラックホール降着流における明るいハードステートの輻射磁気流体シミュレーション 五十嵐太一(千葉大学)
		11:06	W09b Influence of the magnetic field for relativistic radiative shocks 大海ほのか(大阪教育大学)
		11:06	W10b 超高光度 X線源 Holmberg IX X-1の広帯域 X線同時観測スペクトル解析 吉武知紘(京都大学)
		11:06	W11b ARTIST コードを元にした空間3次元一般相対論的輻射輸送コードの開発 高橋幹弥(筑波大学)
			W12c 「すざく」アーカイブを用いたブラックホール候補 GRS 1758-258 の X線解析 伊藤穂乃花(東京工業大学)

3月17日(火) 午後・H会場		3月18日(水) 午前・H会場	
13:00	W13a 順回転、逆回転ブラックホールをもつ超臨界降着円盤の一般相対論的輻射磁気流体シミュレーション 内海碧人(筑波大学)	09:30	W25a Numerical Modeling of Clocked Burster GS1826-24 with the physics inside neutron stars 土肥明(九州大学)
13:12	W14a 自転するブラックホール近傍での自発的磁気リコネクション 小出眞路(熊本大学)	09:42	W26a 中性子星との低質量 X 線連星の長期変動について II 浅井和美(理化学研究所)
13:24	W15a 3次元磁気流体数値計算に基づく降着円盤渦状腕衝撃波の形成 町田真美(九州大学)	09:54	W27a 2017年11月に Crab pulsar で生じた glitch 前後の MAXIガススリットカメラによる X 線パルス観測 大枝幹(東京工業大学)
13:36	W16a Wakefield Acceleration in the M87 Jet Yoshiaki Kato (RIKEN)	10:06	W28a 「すざく」のデータを用いた低質量 X 線連星 XB1916-053 の dip の解析 渡辺佑馬(宇宙航空研究開発機構)
13:48	W17a 相対論的状态方程式を用いた相対論的輻射性衝撃波の構造 福江純(大阪教育大学)	10:18	W29a X 線連星系における中性子星の磁場=スピン共進化 鴈野重之(九州産業大学)
14:00	W18a X 線連星における熱-放射駆動型円盤風からの輝線吸収線構造と観測との比較 都丸亮太(東京大学/Kavli IPMU)	10:30	W30a 磁場の強い中性子星の磁極領域からの X 線放射 井上一(宇宙航空研究開発機構)
14:12	W19a Particle Acceleration in the Jets of the Microquasar SS433 須藤貴弘(東京大学)	10:42	W31a 「すざく」衛星による降着中性子星 SMC X-1 の広がった鉄輝線の解析とその軌道・超軌道位相依存性 高嶋聡(東京大学)
14:24	W20a JVLVA を用いた星雲 W50 の電波連続波観測 酒見はる香(九州大学)	10:54	W32a ULX パルサーの超臨界降着柱モデル; パルスの形状と振幅について 井上壮大(筑波大学)
14:36	W21a W50/SS 433 の構造形成に関する磁気流体計算 III 小野宏次郎(九州大学)	11:06	W33b 大質量 X 線連星: IGR J00370+6122 の中性子星 X 線スペクトルおよび周期解析 内田和海(広島大学)
14:48	W22b W50 東端のターミナルショックによる SS433 ジェットの制限 大前陸人(九州大学)	11:06	W34b 連星中性子星合体初期の電磁波放射のスペクトル計算 石井彩子(マックスプランク重力物理学研究所)
14:48	W23b 多波長光度曲線におけるスパーズモデリングを用いたラグ推定手法の開発 大間々知輝(広島大学)	11:06	W35b 超短周期矮新星 OV Boo の 2017 年アウトバースト以降の測光観測 田邊健茲(岡山理科大学)
14:48	W24b Dusty-gasの輻射重力源へのHoyle-Lyttleton 降着; 輻射場の非球対称性と減光の効果 細谷亮太郎(筑波大学)		W36c 非一様媒質中を伝搬する相対論的衝撃波の Particle-in-Cell シミュレーション 富田沙羅(青山学院大学)

	W37c 超強磁場中性子星「マグネター」のバーストの時間的な性質(2) 中川友進(国立研究開発法人海洋研究開発機構)	15:00	W48a 重力崩壊型超新星のポルツマン方程式によるニュートリノ輻射流体計算 岩上わかな(京都大学/早稲田大学)
3月18日(水)午後・H会場		3月19日(木)午前・H会場	
13:00	W38a 高赤方偏移Fast Blue Optical Transientsの検出可能性 寺崎友規(東京大学)	09:30	W49a デンヘルツ重力波天文学におけるIa型超新星起源の探査 武田紘樹(東京大学)
13:12	W39a r-process 元素の崩壊熱の影響を考慮した中性子星連星合体におけるFall-back accretion 石崎渉(京都大学)	09:42	W50a 質量の近いブラックホールと中性子星の連星の合体に対する数値相対論的研究 林航大(京都大学)
13:24	W40a 連星中性子星合体残骸からのr-process 元素崩壊計算による核ガンマ線推定 三輪祐也(埼玉大学)	09:54	W51a 重力波観測ラン O3 におけるすばる/HSC での観測 大神隆幸(甲南大学)
13:36	W41a コクーン光子を用いた短いガンマ線バーストにおける高エネルギー粒子放射 木村成生(東北大学)	10:06	W52a MAXIによる重力波源 X 線対応天体の探査(2019-2020年) 芹野素子(青山学院大学)
13:48	W42a off-axis GRB の残光から GRB ジェットの構造を解く逆問題の研究 高橋和也(京都大学)		
14:00	W43a MAGIC 望遠鏡による GRB 190114C からの逆コンプトン散乱放射の観測 浅野勝晃(東京大学)		
14:12	W44a 全変動最小化を用いた矮新星アウトバースト時における円盤構造の時間発展の再構成 大島誠人(兵庫県立大学)		
14:24	W45a TCP J21040470+4631129: 特異な再増光を見せる WZ Sge 型矮新星 反保雄介(京都大学)		
14:36	W46a 連星の公転軌道面から傾いた円盤で働く熱不安定: IW And 型矮新星の光度変動への応用 木邑真理子(京都大学)		
14:48	W47a 超新星ニュートリノで探る中性子星の質量と半径 中里健一郎(九州大学)		

## X. 銀河形成

3月16日(月) 午後・I会場		14:36	X13a	極長波長電波放射を用いた銀河星形成率の推定 吉田俊太郎(名古屋大学)	
13:00	X01a	ALMA CO Observations of the Host Galaxies of Long-duration Gamma-ray Bursts. I: Molecular Gas Scaling Relations 廿日出文洋(東京大学)	14:48	X14a	トポロジカルデータ解析の銀河分布への応用 河野海(名古屋大学)
13:12	X02a	Atacama Compact Array Band 8 受信機を用いた、近傍超高光度赤外線銀河の [C I] $^3P_1-^3P_0$ , CO( $J=4-3$ ), $600\mu\text{m}$ ダスト連続光サーベイ観測 道山知成(KIAA/PKU)	15:00	X15b	スパースモデリングを用いた「あかり」遠赤外線画像の高解像度化 村田一心(法政大学)
13:24	X03a	サブミリ波銀河の輝線から探る大規模構造 三橋一輝(東京大学)	3月17日(火) 午前・I会場		
13:36	X04a	遠赤外線輝線銀河のブラインド探査による星形成史の研究 Natsuki H. Hayatsu (The University of Tokyo)	09:30	X16a	CHORUS Data Release 1 のデータ検証および天体個数密度の測定 山中郷史(早稲田大学)
13:48	X05a	Discovery of a new group consisting of four submillimeter galaxies at $z = 3.2$ Soh Ikarashi (Durham University)	09:42	X17a	HSC-SSP 深撮像データと可視分光観測で探る $z \leq 0.03$ 極金属欠乏銀河 II 小島崇史(東京大学)
14:00	X06a	ALMA uncovers the [CII] emission and warm dust continuum in a $z = 8.31$ LBG Tom Johannes Lucinde Cyrillus Bakx (Nagoya University)	09:54	X18a	すばる望遠鏡 Hyper Suprime-Cam で発見された “blue-excess dust-obscured galaxies (BluDOGs)” の可視光線スペクトル 登口暁(愛媛大学)
14:12	X07b	[OIII] $88\mu\text{m}$ , [CII] $158\mu\text{m}$ , 遠赤外線の光度を用いた赤方偏移 $z = 8.312$ の銀河に対する星間物質 “porosity” の推定 萩本将都(名古屋大学)	10:06	X19a	HSC 広視野撮像観測による $z \sim 4$ における原始銀河団銀河の光度関数 伊藤慧(総合研究大学院大学/国立天文台)
14:12	X08b	赤方偏移 $z=9.11$ [O III] 輝線銀河の ALMA サイクル6 追観測 徳岡剛史(早稲田大学)	10:18	X20a	近赤外線データによる HSC wide layer の測光的赤方偏移の改善 近藤寛人(名古屋大学)
14:12	X09b	極めて等価幅の大きな輝線銀河の検出と初代銀河の可能性について 浅田喜久(京都大学)	10:30	X21a	機械学習を用いた銀河の衝突と合体が活動銀河核に及ぼす影響の評価 小林宇海(総合研究大学院大学)
14:24	X10b	ALMAで探る遠方原始銀河団の環境効果 青山皓平(東北大学)	10:42	X22a	機械学習を用いた輝線強度マップの分離 森脇可奈(東京大学)
14:24	X11b	The lensing nature of Herschel Bright Sources Tom Johannes Lucinde Cyrillus Bakx (Nagoya University)	10:54	X23a	Understanding Galaxy Evolution through Machine Learning Suchetha Cooray (Nagoya University)
14:24	X12b	電波-X線2変数光度関数進化 河野海(名古屋大学)	11:06	X24b	高赤方偏移における低光度クエーサーの種族推定 高橋歩美(愛媛大学)

## X. 銀河形成

11:06	X25b	すばるで探る近傍極金属欠乏銀河の形態と環境 磯部優樹 (東京大学)	14:00	X36a	大規模シミュレーションを用いたフィラメント降着がハロー構造へ及ぼす影響 森永優 (千葉大学)
11:06	X26b	Ly $\alpha$ Luminosity Function at $z = 1.9-3.5$ and the HETDEX Survey Yechi Zhang (The University of Tokyo)	14:12	X37a	宇宙論的シミュレーションで探る $z=3$ の銀河間物質における初代星起源重元素 桐原崇亘 (千葉大学)
11:18	X27b	ディスクとバルジの2成分を考慮した化学進化モデルから推測されるダストのサイズ分布および減光曲線 長崎早也香 (名古屋大学)	14:24	X38a	超矮小銀河での $r$ 過程元素生成 垂水勇太 (東京大学)
11:18	X28b	ダストガス間の速度差を考慮したブラックホールへの質量降着:ダストの空間分布と熱放射 一色翔平 (北海道大学)	14:36	X39a	個々の星を分解した銀河スケールシミュレーションに向けた星形成モデル構築 平居悠 (理化学研究所)
11:18	X29b	銀河衝突によるダークマター欠乏銀河の形成 大滝恒輝 (筑波大学)		X40c	MP 法におけるSemi-Lagrangian 法の実装 田中賢 (筑波大学)
3月17日(火)午後・I会場			3月18日(水)午前・I会場		
13:00	X30a	3次元輻射流体シミュレーションを用いた銀河中心ブラックホール超臨界成長の研究 豊内大輔 (京都大学)	09:30	X41a	$z < 1$ における銀河の3次元形状の比星形成率および星質量依存性とその進化 鍛冶澤賢 (愛媛大学)
13:12	X31a	銀河と銀河中心ブラックホールの進化におけるAGNフィードバックの役割 岡本崇 (北海道大学)	09:42	X42a	WERGS: Lyman break radio galaxies found by Subaru HSC 山下拓時 (国立天文台)
13:24	X32a	AGN Feedback Model in GADGET3-Osaka: Isolated Galaxy Abednego Wiliardy (Osaka University)	09:54	X43a	Wide and Deep Exploration of RGs with Subaru HSC (WERGS): The Environment of High- $z$ Radio Galaxies at $z \sim 4$ 内山久和 (国立天文台)
13:36	X33a	ダークハローの内部構造による stellar mass-halo mass relation の分散 福島啓太 (大阪大学)	10:06	X44a	HSC サーベイで探るAGNと明るい銀河の強い相関関係のメカニズム 白崎裕治 (国立天文台)
13:48	X34a	M31 恒星ストリームと暗黒物質サブハローの相互作用:すばるPFSへの期待 三木洋平 (東京大学)	10:18	X45a	大規模可視光面分光サーベイHETDEXデータを用いて探る $z \sim 2-3$ Type1 AGN光度関数 鹿熊亮太 (東京大学)
	X35c	Milky Way サイズの dark matter halo に付随する subhalo の軌道運動と衝突過程 森正夫 (筑波大学)	10:30	X46a	A NuSTAR and XMM-Newton Study of the Two Most Actively Star-forming Green Pea Galaxies (SDSS J0749+3337 and SDSS J0822+2241) 川室太希 (NAOJ)



## Y. 天文教育・広報普及・その他

10:42	X47a	Identification and Investigation of Interacting Galaxies Using Spatially Resolved Data Kiyooki Christopher Omori (Nagoya University)	3月16日(月)午後・A会場
10:54	X48a	可視面分光観測で探る銀河の棒状構造に起因する星形成とクエンチング 村田一心(法政大学)	13:00 Y01a 太陽系外惑星命名キャンペーン 2019 山岡均(国立天文台)
11:06	X49a	MaNGA データで探る銀河形態と銀河内部の星形成活動分布の関係 小山舜平(愛媛大学)	13:12 Y02a インターネット天文学辞典の運用・利用状況の報告 縣秀彦(国立天文台)
11:18	X50a	ALFALFA スペクトルから探る近傍銀河のHIガス質量の形態依存性 並木茂朗(総合研究大学院大学)	13:24 Y03a 天文学を税金を使うことに賛成なのはどんな人? 生田ちさと(宇宙航空研究開発機構)
			13:36 Y04a 天文学講演におけるアンケート自由記述欄に関するテキスト分析 青木成一郎(京都情報大学院大学)
			13:48 Y05a 国立天文台「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE サイトの公開 臼田-佐藤功美子(国立天文台)
			14:00 Y06b 非欧米言語科学辞書における天文学用語の記載状況の調査例 玉澤春史(京都市立芸術大学/京都大学)
			14:00 Y07b 科学ライブショー「ユニバース」におけるライブ天体観測 亀谷和久(国立天文台)
			14:00 Y08b 夜空の明るさの測定における天候の自動判断に向けた検討結果 小野間史樹(星空公団)
			14:12 Y09a プラネタリウムを用いたデータサイエンスへの適用とその教育利用 忠地涼汰(長野工業高等専門学校)
			14:24 Y10a 明治20年の皆既日食を撮影したと思われる写真の発見その後 大越治(国立天文台)
			14:36 Y11a 長浜城歴史博物館の国友一貫斎の主鏡面精度測定 萩野正興(国立天文台)
			14:48 Y12a 福岡県八女市星野村における地方創生プロジェクトI 田中幹人(法政大学)
			15:00 Y13b 天体学習用教材「VR望遠鏡」の開発 梶孝治(日本大学)

15:00	Y14b	人工衛星電波受信実験の高校物理教材化：正課授業での実践 内山秀樹（静岡大学）	
15:00	Y15b	Pythonによる天体画像解析の教材作成 -GROWTH Astronomy Schoolを参考に- 戸間紗也香（東京工業大学）	
15:12	Y16b	「長野県は宇宙県」の活動について 衣笠健三（国立天文台）	
15:12	Y17b	木曾観測所における地域連携事業の一例 （木曾星の里づくり推進協議会） 青木勉（東京大学）	
15:12	Y18b	国立天文台黒点データを用いた太陽長 周期活動 松岡哲史（武蔵野大学）	
15:24	Y19b	JVO portal の機能更新：VO クローリング データベースを利用した多波長データ検索 システム 白崎裕治（国立天文台）	

2020年2月20日発行

年会実行委員会

委員長	酒井剛	(電気通信大学)
委員	岩切渉	(中央大学)
	正田亜矢香	(国立天文台)
	鈴木知治	(中部大学)
	成田憲保	(アストロバイオロジーセンター)
	廿日出文洋	(東京大学)
	古澤久徳	(国立天文台)
	堀田英之	(千葉大学)
	松岡良樹	(愛媛大学)
	町田真美	(九州大学) 保育室担当

年会開催地理事

久野成夫 (筑波大学)